アメリカ合衆国南部における高齢者の流入と居住地選択に関する研究

課題番号　１６５２０４８１

平成１６年度～平成 18 年度科学研究費補助金

（基盤研究（C））研究成果報告書

平成 19 年 5 月

研究代表者　菅 野 峰 明

埼玉大学教養学部教授

研究組織

研究代表者：菅 野 峰 明　（埼玉大学教養学部教授）
研究分担者：平井　　誠　　（神奈川大学人間科学部准教授）

交付決定額

	直接経費	間接経費	合計
平成 16 年度	1,500 千円	0 円	1,500 千円
平成 17 年度	1,200 千円	0 円	1,200 千円
平成 18 年度	800 千円	0 円	800 千円
総計	3,500 千円	0 円	3,500 千円

研 究 発 表

（１）学会誌等
なし

（２）口頭発表
菅野峰明・平井 誠:「アメリカ合衆国フロリダ州における高齢者の流入とリタイアメント・コミュニティ」日本地理学会春季学術大会，2006 年 3 月 28 日

（３）出版物
菅野峰明:「アメリカ合衆国の諸地域」小塩和人・岸上伸啓編『朝倉世界地理講座１３　アメリカカナダ』朝倉書店，2006 年，41－76.

Ⅰ．はじめに

高齢者はアメリカ合衆国において最も成長している年齢層である．1900 年にアメリカ合衆国の平均余命は 47 歳であった．1990 年代には平均余命は 78 歳に延びた．このことは高齢者の比率の高さと多数の高齢者の存在だけではなく，高齢者が長生きをしていることを意味する．高齢者の増加は高齢者の住む地域社会に大きな影響を与える．地域社会は高齢者の住宅，サービスの供給に関与することになり，高齢者の健康と生活の質そして居住環境の維持に特別な関心を抱くようになってきた．

人口の移動が人口変化の大きな要因であることが明らかであり，地域社会における高齢者の増加は人口移動の増加によるところが大きい．高齢者の移動パターンについては多くの学問分野で研究が行われ，地理学でも研究の対象となってきた．人口移動とその場所における加齢は高齢者の空間的分布を形成する人口変化の 2 つの主要な要素である．高齢者はどこから来て，どこへ行くのか，そして何が高齢者の選択をそうさせるのか，という問いが地理学における重要な関心であった．高齢者の移動は，カウンティ（郡）内に留まるのか，あるいは隣接するカウンティ（郡）にまで及ぶのか，それとも州の境界をいくつも超えて目的地に達するのかという問いが出てくる．1980 年代には合衆国の人口移動の研究は州レベルと地域レベルのものであったが，最近ではカウンティレベルの研究も増えてきている．

アメリカ合衆国南部のフロリダ州とテキサス州は，第二次世界大戦後，北東部や中西部からの人口流入が続いている．北東部や中西部からこれらの州に流入する人口のなかで65歳以上の高齢者の割合は高い．フロリダ州の高齢者の比率は17.5%（2000年）に達し，全米で第1位の高い比率になっている．フロリダ州への1995～2000年の国内純人口移動60.7万人のうち，14.9万人が65歳以上の高齢者であり，全体の24.6%を高齢者が占めた．フロリダ州への高齢者の移動は，退職した人びとが余生を温和な気候の地域で過ごすため，と説明されてきた．確かに，フロリダ州は合衆国の南部にあり，気候的には温暖で，冬季の寒さに煩わされることもない．しかし，高齢者はフロリダ州において普遍的に居住するのではなく，フロリダ半島の東海岸や西海岸に位置する大都市圏内および中央部のレイク・デストリクト（湖水地区）の環境条件の良いところに居住することが多い．

フロリダ州とアリゾナ州は退職高齢者の流入先として知られているが，これらの州内にも高齢者の集中するカウンティが出現してきた．これらのカウンティは自然のアメニティが豊富なところでもある（Rogers, 1992）．また，これらのカウンティでは，最近，高齢者のためのリタイアメント・コミュニティの開発が顕著である．そこではレクリエーション施設や医療サービスの充実を謳い文句にして高齢者の定住を進めている．

高齢者移動の目的地の選択については，合衆国の国勢調査による高齢者年齢集団に関する場所と個人の属性のデータに基づき，伝統的なプッシュープル・モデルのアプ

ローチを用いて分析した研究がある（Clark, D. E. *et al*., 1996）．また，住宅の選好，住宅価格，経済的要因などを検討した研究もある（Clark W.A.V. and White K., 1990）．

本研究は，北東部や中西部からフロリダ州に流入する高齢者の移動パターン，つまり，オリジン・ディステネーションを明らかにした上で，高齢者はどのようにして定住先を選択して住みつくのかという居住地の評価を分析することを目的とする．高齢者がリタイアメント・コミュニティを評価する際にそこの生活環境が大きな意味を持つのは明らかであるので，まず，高齢者のための生活環境がリタイアメント・コミュニティでどのように整備されているのかも調査する．次に野外でのレクリエーションを中心とするライフスタイルに志向する高齢者がリタイアメント・コミュニティをどのように評価し，そこでどのような生活を送っているかを明らかにする．

アメリカ合衆国北東部と中西部から南部への人口移動は地理学の研究対象となり，その人口移動パターンと要因は明らかにされつつある．しかし，高齢者の人口流入が著しいフロリダ州で，流入してくる高齢者がどのようなところに居住し，なぜそこを居住地とするかについてのマイクロな研究は少ない．本研究は，高齢者の流入先としてのリタイアメント・コミュニティのレクリエーション施設や医療施設と住民の評価の関係をマイクロなレベルで調査し，高齢者の居住地選択過程における要因を明らかにするとともに高齢者のライフスタイルとリタイアメント・コミュニティとの関係を分析する．マイクロなレベルでの調査のために，リタイアメント・コミュニティで高齢者の住民にインタービューを行い，ライフヒストリーを聞きながら居住地の評価過程と住民のライフスタイルを分析する．高齢者は各々のライフステージと価値観を基にして余生を送る生活環境，つまり居住地を選択していることが予想される．

平成16年と17年にフロリダ州の現地調査によってフロリダ州政府から高齢者の流入に関する資料を収集し，またフロリダ半島の西海岸および中央部の湖水地区のリタイアメント・コミュニティを訪問してリタイアメント・コミュニティの生活環境の予察的調査を行った．まず，アメリカ合衆国の北東部や中西部からフロリダ州に移動する高齢者のオリジン・ディステネーション（発地・着地）を特定するために，国勢調査局の人口移動のデータを分析して，州レベルの移動パターンを明らかにする．高齢者人口の流入はフロリダ州南部のDade郡を中心とする地域とフロリダ半島西海岸および中央部の湖水地区を中心とする地域に多い．これらの流入先はどのような居住環境になっているかを分析する．

さらに平成18年度の夏に2週間，フロリダ州の西海岸と湖水地区のリタイアメント・コミュニティで現地調査を行った．リタイアメント・コミュニティを訪問し，コミュニティの施設および種々のサービスを調査するとともに，そこの住民の移動プロセスおよび居住地選択過程を探求するために，ライフヒストリーについて住民にインタービューした．リタイアメント・コミュニティの生活環境の調査は健康な生活を送るための施設がどの程度整備されているかを中心に行った．高齢者はどのようなライスタイルを求め，どのような生活の質を求めながら日常生活を送っているのかも調査

した．

リタイアメント・コミュニティの住民にインタビューをして，ライフヒストリーを語ってもらい，その内容を分析する．このようなマイクロな調査をしながら，リタイアメント・コミュニティの多い地区と高齢者の流入との関係を分析する．これらの調査によって居住地選択の要因が明らかになる．（菅野峰明）

Ⅱ．アメリカ合衆国における高齢者の移動

１．高齢者の移動の背景

アメリカ合衆国において移動しようという高齢者たちには，次の４つの特性があると考えられている（Longino,Jr,C.F.，1992）．

１）拠り所の少ない人

仕事をしていた間には職場と住居が密接な関係があり，住居のある地域社会が個人と強い関係をもっている．仕事を退職し，職場との関係が希薄となり，住んでいる地域社会だけとの関係になると，地域社会との結びつきがもともと少ないと，退職そのものが移動の切っ掛けとなって移動を起こしやすい．さらに，同じ場所に住んでいた友人が退職とともにその地域社会を離れると，それは地域社会との結びつきを弱くすることにもなり，移動の契機となりうる．また，子どもが大学への進学のため，あるいは就職のために家庭を離れると，退職者が地域社会に留まる理由が少なくなって移動することにつながる．

社会構造の常として加齢が社会的拠り所を弱めるのではないかという疑問が出てくるのは当然である．退職時の加齢が地域社会との結びつきを保つためには，結びつきを強める一層の努力と周囲との調和が必要となる.これらの努力が足りないと，親密な関係の範囲を超えた社会からの解放が進行する．

しかしながら，この全体像は，さらに複雑なものである．場所との結びつきが弱くなると移動はしやすくなる．しかし，移動の要因としてこれは主要なものではない．むしろ，異なった環境あるいは特定の人と一緒にいたいという希望を強く感じる退職後のライフスタイルの明確なイメージと合わさったときに，これは重要なものとなる．

２）退職後のライフスタイルへの憧れの強い人

退職後のイメージは，レジャーや休暇の経験を延長したものとして捉えられることが多い．子どもの夏のキャンプや家族旅行は，退職後のライフスタイルのイメージに大きな影響を及ぼす．最も人気のある退職者の場所は旅行者や行楽客を惹きつける所かその近くに位置することが不思議ではない（Longino, 1990a）．前の世代，とくに両親や兄弟そして友人の退職後の移動が成功した場合には，そのことが次の世代の人びとの移動のモデルとなる．

一方，青年・中年時代にレジャーを楽しまずに労働した人びとは，退職するときに退職後，こうしなければならないというライフスタイルのイメージをもつことはない．彼らは退職を適切な人生の１つのゴールとして捉え，退職に伴う移動は自分たちには関係ないことだと主張する．

しかしながら，退職後のライフスタイルと環境の理想には暗い側面もある．それは，否定的な経験に基づく反対の計画によって形成される．つまり，退職後，これまで経験してきた気候の悪い面を全然もたないところに移動しようという憧れである．寒冷地で過ごした人にとって，退職後の理想の土地は温暖の地である．このような説明は，寒くて厳しい冬を過ごしてきた人びとのサンベルトへの移動にうまく当てはまるであろうし，また，逆にフロリダ生まれの人びとが退職後，涼しい夏を求めてノースカロライナ州西部のアパラチア山地に移動する現象にも当てはまるであろう．

ライフスタイル志向の移動は場所中心となりがちである．人口移動の研究者は人気のある特定のリタイアメント地域に焦点を当てて研究した結果，彼らの研究はそこにアメニティ志向の退職者が多いことを発見するのである．また，研究を進めるのは困難であるが，退職後に人に惹かれて移動するのも重要である．人は場所と違って，1 つの所に留まってはいない．移動パターンを研究するために国勢調査のデータを利用する研究者にとって，場所は移動者の個々の記録に表れる．しかし，他の人びとの場所は記録に表れない．研究者は次のように推測する．フロリダ州へ移動する退職者は，すでにフロリダ州に住んでいる子どもや友人の近くに移動するときには，主にその場所によって動機づけられる，と推測する．暖かい気候を求めるというのは，この場合，付加的なものである．

このような，人に動機づけられての移動を Wiseman and Roseman（1979）は「血族関係移動」と呼んだ．しかし，これらの関係は必ずしも家族的なものを必要としないので，このタイプの移動にたいする名称としては，「血族関係移動」よりも「関係性移動」の方がよいであろう．

３）他の場所と時間の魅力に惹かれる人

過去の時間と場所に対するノスタルジアは，退職後のライフスタイルへの欲求の原因となって移動をもたらすことがある．過去の記憶を満足させたいという企図は，かつての環境あるいはある点でそれに類似した環境に戻ろうという移動の原因となる．

生まれた州に帰るという高齢者の移動には 2 つのタイプがある（Longino and Serow，1992）．1 つは地方への移動であり，もう 1 つは U ターンである．生まれた地方への高齢者の移動は，理論としてはおもしろい．つまり，若い人は仕事を求めて移動し，歳をとって退職すると，自分の故郷に帰るという移動は仮説となる．その説明として，退職者はこれまで住んでいた場所では，生活水準が高くてそれに

見合った所得を得ていたが，その所得水準で退職金を手にして，故郷の地方に帰ってくると，彼らは昔からその場所に住んでいる人たちよりも高い社会的地位を獲得することが出来る．地方へのこのような移動は，合衆国において長い間続いてきた退職移動の原型の１つである．このような移動はアフリカ系アメリカ人の間でやや高い傾向がある（Longino and Smith，1991）．このことは，アフリカ系アメリカ人の人口比率の高い南部に戻ってくる退職者が多いことを意味する．

一方，U ターンは，歳を取って他人の世話，多くの場合拡大家族，になる時に出身の州に帰ることである．これは，退職者にとっては循環的なプロセスであって，歳をとってくると理想のライフスタイルに近い場所に移動することであり，後には介護の必要性が高くなると，拡大家族の介護人のところに戻ることになる．

４）健康で経済的余裕があり，移動の意志の強い人

退職者が転居に必要な資産―経済的，健康上，そして意志の点で―は，個人によって大きく異なる．退職者の多くは退職するまで居住していた場所において暮らし向きがよいということは，移動しない人がそこに住み続けることを意味するものではない．単に望んでいる転居をするだけの資産を持っていない人もいるということである．

退職に際して転居する人びとのあいだでも，彼らの経済的豊かさには大きな違いがある．一般的に言えば，長距離の移動をする人は，移動しない人や短距離の移動をする人よりも経済的に豊かであると言うことができる．これは，実際に移動をすることになると，かなりの経済的支出を伴うことになるためである．また，生活費の安い地域に移動すると，さらに経済的な豊かさがプラスされることになる．

健康であるという資産は，両面の影響を与える（Patrick, 1980）．健康であれば，早期退職しての転居を促す．退職者はしばしば自分自身の転居を，「自分は健康なので，新しいライフスタイルを楽しむため」と説明する．一方，Longino 他（1991）の研究によると，歳をとって健康状態が悪くなってくると，別の居住環境のところに移動したいという切っ掛けになる，という．この過程は伴侶を亡くして１人暮らしになると，さらに加速される．

移動の意志の強い人とは，移動に伴う危険を冒すという心の内部の自由を持っている人たちである．仕事をしている間に何度も引っ越しを経験した退職者は転居とコミュニティの移動を理解し，彼らにとって退職後の移動は疑いと恐れもないものになる．地域社会との結びつきが強い場合には，感情の代価が伴う．その感情は，たとえ所得と健康の資産が豊富であっても，移動する努力を減少させてしまう．この意味では，地域社会に根付いていることは，移動の意志の代価あるいは障碍である．

５）ライフコースからみた移動

退職による移動は，退職直後の１回の移動だけと考えるのは誤りである．退職後

の移動を十分に理解するためには，ライフコースの観点からより広く見なければならない．Litwak and Longino (1987)はライフコースにおいて時期の異なる 3 つの高齢者移動があると主張している．最初の移動はアメニティ移動と呼ばれる．この移動は退職直後に起こりやすい．この移動で動く人びとは，健康で平均以上の財政的資産をもっている夫婦であり，主にライフスタイルの理由によって動機づけられるようである．この移動は，ライフコースにおける必要な移動ではないが，移動が行われるとすれば，退職後の早い時期である．

第 2 の移動のタイプは高齢者が日常生活の仕事が出来ないほどの慢性の障碍となったときが動機となる．配偶者がいる場合には，配偶者が介護をしたり，日常の仕事を援助しなくとも出来るように動機付けをしたりする．この第 2 のタイプの移動の動機は，伴侶を亡くして 1 人暮らしと障碍が重なると，一層強くなる．もし，高齢の退職者がこのような状況になり，介護をしてくれる人から遠く離れて住んでいると，介護を必要とする高齢者は介護を得る場所まで移動しなければならない．この移動は，必ずしも人生における第 2 の移動とは限らない．もしかしたら，これは最初で最後の移動となるかもしれないし，あるいはこのような移動は，その前に死亡してしまうと，全然なくなることになる．しかし，このタイプの移動をする人たちは，アメニティ移動をする移動者よりも平均年齢は高くなるし，時間的には二番目の移動になる．ニューヨーク州とフロリダ州との間の高齢者の移動特性は，この解釈に当てはまる（Longino, 1984, 1985）．ニューヨーク州からフロリダ州に向かう高齢退職者の多くは第 1 のタイプの移動であり，フロリダ州からニューヨーク州へと向かう移動の流れの多くは第 2 のタイプの移動である．

血縁関係が少なくなると，第 3 のタイプの移動が行われる．それは，高齢者が重症の慢性の障碍となり，施設による介護しかない場合である．動機づけは第 1 のタイプの移動に対して弱く，第 2・第 3 の移動に対しては一層強くなる．

退職者の大部分は，退職前に住んでいた環境に引き続き居住することを望む．これは，彼らが地元の経済と社会に結びつきがあり，彼らの過去がその場所と密接な関連があり,彼らはそこの環境に適応したライフスタイルを送ってきたためである．このような退職者にとっては移動しなければならない理由は存在しない．退職後に自分の夢を実現させるために移動をして，活動空間を変えて，好みのライフスタイルにしたいという人たちは少数派である．

アメリカ全体でみると,移動した高齢者はサンベルトに集中し,地域的にみると，彼らは観光地としての伝統がある沿岸部や湖岸部や山間地に居住する．アメニティ移動者はとくにこれらの地域に多くみられる．

２．アメリカ合衆国における高齢者の移動パターン

高齢者達はアメリカ合衆国のどこに移動し，どこが地理的に高齢者の多いところとなっているか，そして，それらの場所に共通しているものは何かを考えてみる際に，アメリカ合衆国の高齢者移動パターンを理解しておく必要がある．

第二次世界大戦終了までの高齢者の移動パターンの研究によると，1935－1945年において高齢者の移動先として最も多いのは太平洋沿岸と大西洋南部地域であり，大西洋南部地域へ移動する高齢者はミシシッピ川以東から来ることが明らかになった（Friedsam，1951）．しかも，これらの移動パターンは長年に亘って安定したものであった．アメリカの国勢調査では住民の移動に関して，調査が行われる 5 年前に住んでいた場所を質問する．1960，1970，1980 年の国勢調査において移動に関する高齢者の傾向はほぼ同じである．高齢者の州間移動の半分はわずか 7 州に向かっているのである．フロリダ州は，これら 30 年間に亘って，60 歳以上の州間移動の約 4 分の 1 の到着地である．一方，カリフォルニア州は同時期に第 2 位の地位を保ち，それに次いで 1970 年と 1980 年はアリゾナ州，テキサス州，ニュージャージー州の順となる（Rogers and Watkins，1987）．

フロリダ州とカリフォルニア州そしてアリゾナ州では多数の高齢者が他の地域の州から流入しているが，それらの出身地は異なっていた．あたかもミシガン湖から分水嶺があるかのようにミシガン湖から南に線を引いて，その東側の地域からの高齢者はフロリダ州へ，その西側の地域からの高齢者はアリゾナ州とカリフォルニア州へ移動する州間移動が顕著であった．この移動パターンは，実は，Friedsam（1951）が指摘したことと同じであった．1965-70 年と 1975-80 年の高齢者の州間移動において，ニューヨーク州は 14%を占め，両時期の移動の発地として 1 位であった．

1970 年代以降にはサンベルト現象が注目され，12 のサンベルト州への高齢者の移動が研究された（Biggar, 1980, 1984）．これらの諸州は全米人口の約 3 分の 1 を占めているが，1975-80 年において高齢者移動の 56%を受け入れていた．さらに，1970～1980 年にかけてサンベルト諸州の 3 分の 2 は高齢者流入の比率を増大させた（Biggar, 1984）．

1995～2000 年における合衆国の地域間の高齢者移動パターンは，一般の人口の移動パターンと類似している．つまり，高齢者も南部と西部に向かって移動し，北東部と中西部から流出している．

南部は，合衆国の 4 つの地域の中で高齢者の純人口移動が最大である（表１）．1995～2000 年に 437 千人の高齢者が他の地域から南部に流入した．この数字は北東部（90 千人）や中西部(133 千人)，そして西部（177 千人）への高齢者の移動よりもずっと多い．同じ時期に南部から流出した高齢者は 204 千人で，その純人口移動は 233 千人となる．これは合衆国の 4 つの地域の中で最大の増加である．この数

値を南部に居住する高齢者の純人口移動率に直すと，19.2 となり，1995 年に南部に居住していた高齢者 1,000 人当たり 19 人の高齢者が増加したことになる．

南部において大西洋南部地区は高齢者の増加が最大であった．この中に含まれる 8 州とワシントン特別区において，5 つの州（バージニア，ノースカロライナ，サウスカロライナ，ジョージア，そしてフロリダ州）は全米の純人口移動のトップ 10 の中にランクされた．

同じ時期に、ニューヨーク，ニュージャージー，ペンシルベニアからなる中部大西洋沿岸地区は人口流出によって高齢者が最も減少した．この地区から高齢者が 224 千人流出し，流入した高齢者はわずかに 70 千人であった．この結果，この地区は約 150 千人の減少となり，純人口流出率は 27.5 であった．また，これらの州から流出した人口の多くは 65～74 歳の高齢者グループであった．したがって，この地区からの高齢者の移動は退職後に行われる早い回の移動である．

表１　アメリカ合衆国の高齢者（65 歳以上）の地域別流入者・流出者・純人口流入者（1995～2000 年）

地域	流 入 者	流 出 者	純人口流入者
北東部	89,564	265,378	−175,814
中西部	132,723	241,324	−108,601
南部	436,567	203,788	232,779
西部	176,696	125,060	51,636

資料：U. S. Census Bureau, Census 2000.

人口移動によって高齢者の減少が最も大きかったのはニューヨーク州（114 千人）であり，その数は全米で 2 位のイリノイ州（43 千人）と 3 位のカリフォルニア州（34 千人）よりもはるかに多い．高齢者の減少が多かったトップ 10 の州のうち 5 州は北東部にあった．ニューヨーク州は移動による高齢者人口の減少と同様に，高齢者の純人口移動率でも全米でも第 1 位である（-45.0）．

高齢者の純人口流入が最も多かったのはフロリダ州の 149 千人であった．この数は純人口流入が 2 位であったアリゾナ州（53 千人）のほぼ 3 倍に近く，ネバダ州（22 千人）のそれの 7 倍に近い．高齢者の人口流入者が多い州は南部と西部であった．

高齢者の純人口移動率をみると，ネバダ州が 114.2 で第 1 位であり，アリゾナ州が 87.4 で第 2 位，フロリダ州は 56.9 で第 3 位であった（図１）．ここで高齢者の純人口移動率とは，1995 年と 2000 年に 1 つの地域に住んでいた 65 歳以上の人口

と 1995 年には住んでいたが 2000 年にはどこかに移動した高齢者を分母として純人口流入者（流入者数から流出者数を減じたもの）を除したものに 1,000 を乗じたものである．したがって，ネバダ州では高齢者 1,000 人当たり 114 人が流入したことになる．

全米の高齢者の純人口移動率の分布をカウンティ別にみると，高齢者の純人口移動率の分布パターンは, 4 つの地域や 50 の州を単位にしてみたものと類似している（図２）．つまり，南部と西部で純人口流入があり，北東部と中西部で純人口移動は減少になっている．しかしながら，高齢者の流出があった北東部や中西部でも，ニュージャージー州のオーシャン・カウンティやマサチューセッツ州のバーンステイブル・カウンティ，そしてミシガン州のイートン・カウンティのように，高齢者の増加が著しかったところもある．

高齢者の増加した州のなかでとくに注目すべきは，州のなかで高齢者が増加した地域と減少した地域がみられるところである．それらはアリゾナ州とフロリダ州であり，アリゾナ州北東部では高齢者が減少し，アリゾナ州南西部では高齢者が増加した．また，フロリダ州では南部において高齢者が減少し，中央部において高齢者が増加した．そして，アーカンソー州では，南東部において高齢者が減少し，北西部において高齢者が増加した．

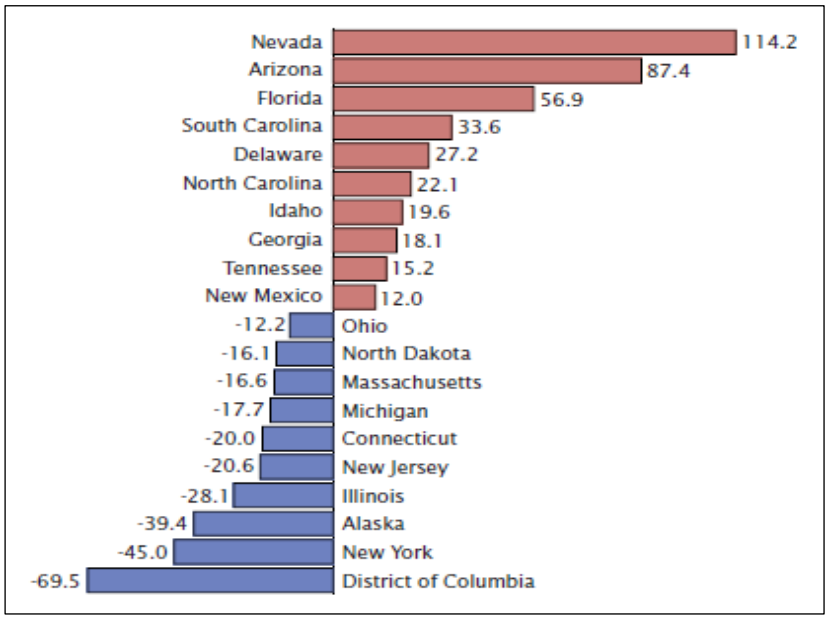

図１　高齢者の純人口移動率の高い州と低い州

資料：U.S. Census Bureau, Census 2000.

高齢者の増加が最大であったのは，アリゾナ州のマリコパ・カウンティとフロリダ州のパーム・ビーチ・カウンティであった．フロリダ州の多くのカウンティで

は，サムター・カウンティをはじめとして高齢者の純人口移動率が高い．他地域において，高齢者の純人口移動率が高かったのは，テキサス州のウイリアムソン・カウンティ，バージニア州のジェームズ・シティ・カウンティ，ネバダ州のナイ（Nye）・カウンティである．一方，高齢者の純人口移動が大きく減少になったのは，カリフォルニア州のロス・アンジェルス・カウンティ，イリノイ州のクック・カウンティ，ニューヨーク州のキングズ・カウンティである．さらに，高齢者の高い流出率がみられたのは，ジョージア州のチャタフーチー・カウンティ，モンタナ州のプレーリー・カウンティ，イリノイ州のポウプ・カウンティであった．　　（菅野峰明）

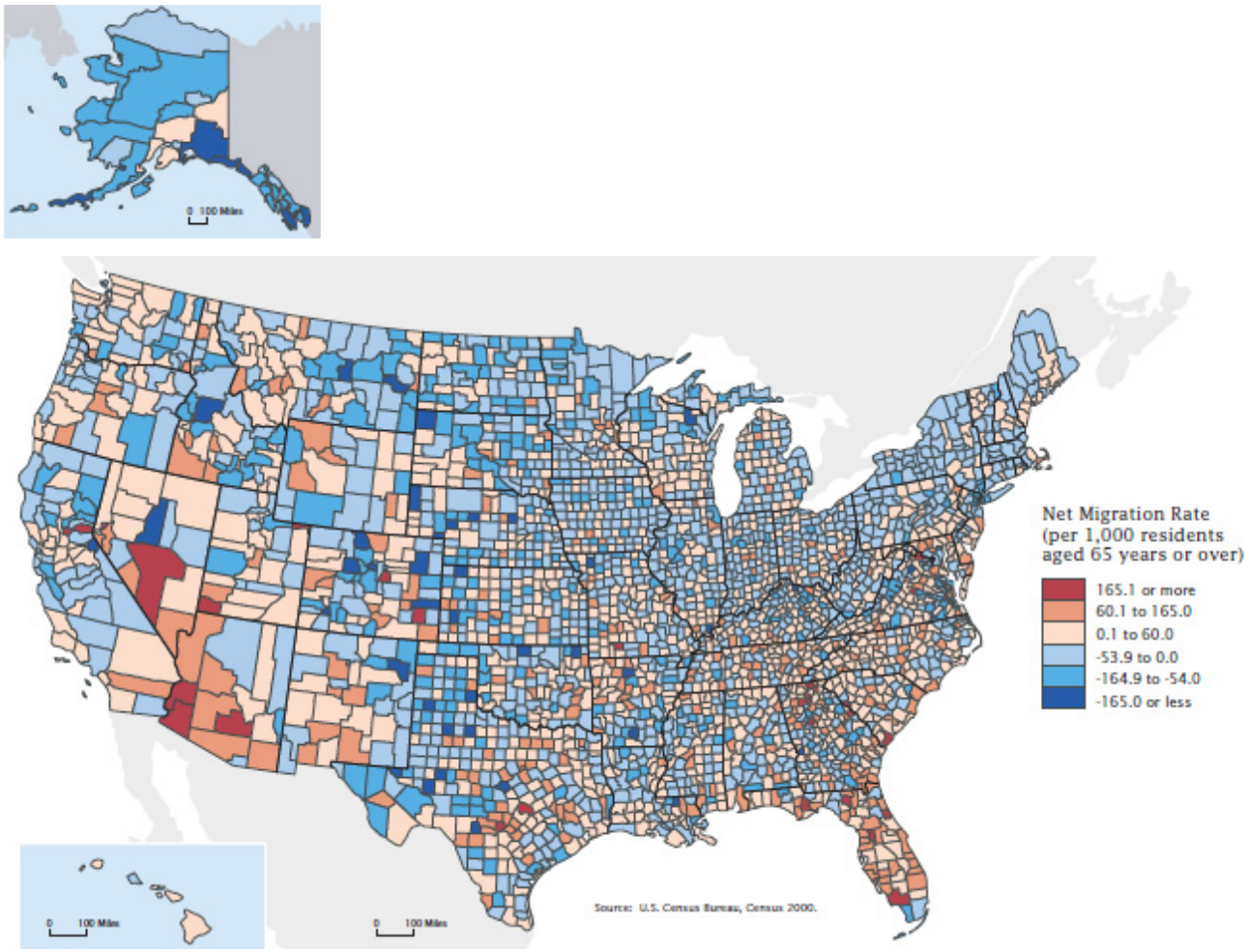

図２　アメリカ合衆国における高齢者の純人口移動率（1995～2000 年）
資料：U. S. Census Bureau, Census 2000.

Ⅲ　アメリカ合衆国南部への高齢者の移動

アメリカ合衆国における高齢者の移動パターンは明白な規則性をもっていて，これは人口移動の構造を反映し，また，理論的仮説を示唆するようなものとも言われている（Rogers, A., 1992）．合衆国における高齢者の長距離移動は発地に関しては広範囲に及ぶが着地に関しては特定の州に集中する傾向があると説明されてきた．スノーベルトからサンベルトへ向かう退職者はミシシッピ川の東からやってくれば，フロリダ州を到着地とし，それ以外はアリゾナ州かカリフォルニアを到着地とする（Longino, 1985）．

経済的に豊かな人びとは退職したあとで健康によい気候のところに移り住んできたが，第二次世界大戦後，このような動きは経済的にそれほど豊かではないと思われる層にまで急速に拡大した．退職者が育った土地へ戻ったり，人気のあるバケーション地域への移動やあるいはただ単に気候のいい地域への移動であったりするが，地域社会との結びつきの少ない人びとや財政的資源をもっている人びとは，このような移動を実践している．

1975～1980 年の高齢者の純人口移動が増加になったのは，サンベルト諸州だけではなかった．そのほかにも 14 の州が増加したのである．高齢者の純人口移動率が高かったのは，フロリダ州を第 1 位として，アリゾナ州，ネバダ州，アーカンソー州，ニューメキシコ州と続く．高齢者人口の減少した州はアラスカ州，ニューヨーク州，イリノイ州などである．フロリダ州とアリゾナ州は高齢者の重要な到着地であり，ニューヨーク州とイリノイ州は重要な発地であることは明らかである．ニューヨーク州を発地とする高齢者の移動の半数以上がフロリダ州を到着地に選んでいる．イリノイ州を出発する高齢者の移動の多くはアリゾナ州とカリフォルニア州を到着地にしている．

1995～2000 年にかけての南部への高齢者の移動をみると，フロリダ州が圧倒的に多く，14.9 万人の純流入者があった．かつてはテキサス州南部のコーパスクリスティを中心としたメキシコ湾岸にも多くの退職者が流入した時期もあったが，1995～2000 年にはテキサス州への純流入者を上回ったのはノースカロライナ州であり，それに次いで流入者数が多いのはサウスカロライナ州であった．ノースカロライナ州への高齢者の流入はフロリダ州への高齢者の流入とは意味が異なる．フロリダ州への高齢者の流入は先に述べたように，温暖な気候とアメニティを求めての移住であるが，ノースカロライナ州への高齢者の移動は，アパラチア山地への高齢者の定住によるところが大きい．ノースカロライナ州西部はアパラチア山地となり，冬季には雪が積もり，生活には厳しい環境となるが，山地の観光地の魅力で観光客を惹きつけて，観光客が退職してからの定住地として選択することになったものである．サウスカロライナ州への高齢者の流入はチャールストンを中心とする大西洋沿岸部への移動によるところが大きい．

実際は，退職者の移動は複雑であり，南部出身の人びとのなかには，北東部や中西部で退職を迎えると，彼らが長い間夢見てきた生まれ故郷に帰ろうと考える人が多い．また，退職後の平穏さは，ゴルフ・コースや海浜，あるいは山地や湖，そして海岸線と大学町で得られると考える人もいる．また，小さな地域社会で古い住居を保存しながら生活するのが夢だと考える人もいる．南部にはこれらの選択肢がそろっている．これらの個々の意思決定に関連して，多数の移住者が望むアメニティを供給するものとして多くのリタイアメント・コミュニティが建設されてきた（図３）．南部には，このような需要を満たすためにリタイアメント・コミュニティが多いのである．とくに，フロリダ州は高齢者の最大の流入地でもあり，リタイアメント・コミュニティはフロリダ半島の東海岸と西海岸およびゲインズビルからオキチョビー湖までの間に多く存在する．

フロリダ州以外でも，ジョージア州とサウスカロライナ州のシー・アイランドは退職者の流入する地域としてよく知られており，また，ミシシッピ州とアラバマ州のメキシコ湾岸も現在では，高齢者の重要な定住先である．内陸部でも，グレートスモーキー山脈のなかのキャシャアーズからアッシュビルにかけての地域は昔から退職者の定住地であった．しかし，最近ジョージア州北部のビッグ・カノーのような保養・リタイアメント・コミュニティを建設している開発業者もいる．

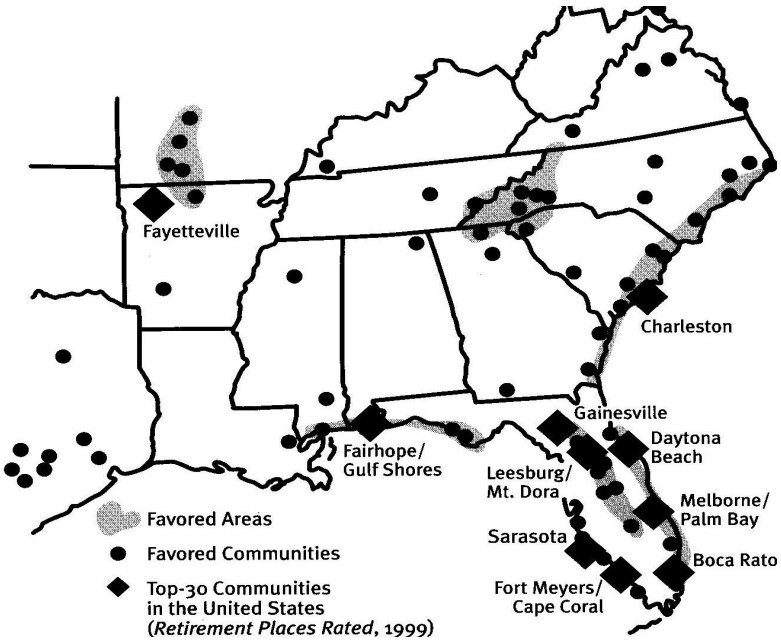

図３　南部におけるリタイアメント地域

資料：Pillsbury, R. (2006)：The New Encyclopedia of Southern Culture, Volume 2, Geography, p.122 より引用．

図３が示すように，南部と中西部の境界にまたがる，オザーク・オシタ山地のリタイアメント地域は全米ではまだよく知られていないが，中西部の人びとにはよく知られている．さらにノースカロライナ州中央部のゴルフ・コースの多いパインハーストとバージニア州北西部のシャーロッツビルから北の乗馬地域もまた退職者の向かう地域として知られている．

１．フロリダ州への高齢者の流入

１）フロリダ州へ高齢者を送り出している地域

1995～2000 年の高齢者の流入がもっとも大きかったのは，フロリダ州である（表２）．フロリダ州は第二次世界大戦後，年間をとおしての温暖な気候と年中楽しめるレクリエーション施設があることから退職高齢者の定住地としてポピュラーになっていった．現在でも多数の高齢者がフロリダに移住してくる．それでは，どこから高齢者が多いのかを検討してみる．

表２　アメリカ合衆国南部における高齢者の流入・流出（1995～2000 年）

州	流入者	流出者	純流入者
Delaware	8,268	5,589	2,679
Maryland	25,979	30,367	−4,388
Virginia	38,977	32,040	6,937
West Virginia	9,574	10,505	−931
North Carolina	50,655	29,733	20,922
South Carolina	31,789	16,029	15,760
Georgia	42,444	28,518	13,926
Florida	286,808	137,368	149,440
Kentucky	15,782	17,179	−1,397
Tennessee	33,062	22,563	10,499
Alabama	19,765	16,734	3,031
Mississippi	13,437	11,004	2,433
Arkansas	20,002	17,506	2,496
Louisiana	11,677	14,149	−2,472
Oklahoma	18,162	17,088	1,074
Texas	71,373	53,416	17,957

資料： U. S. Census Bureau, Census 2000.

表３　フロリダ州への高齢者の純流入（1 万人以上，1995～2000 年）

州	流入者
New York	61,298
New Jersey	23,329
Ohio	18,519
Michigan	18,462
Pennsylvania	17,350
Massachusetts	15,159
Illinois	15,023
Indiana	10,145
Connecticut	10,133

資料：U.S. Census Bureau, Census 2000.

フロリダ州への高齢者流入が 1 万人を超える州を表 3 で示すと，高齢者の流入はニューヨーク州が圧倒的に多く,次いでその隣のニュージャージー州となる.また，ペンシルベニア州，マサチューセッツ州とコネチカット州からも流入者が多い．北東部のこれらの州からの流入が多い一方で，中西部のオハイオ州，ミシガン州，イリノイ州，インディアナ州からの流入者も多く，フロリダ州への流入者は冬季に寒さが厳しくなる北東部と中西部の諸州からやってくることが分かる．つまり，これらの流入者の多くは温暖な気候というアメニティを求めての移住と言えるだろう.

フロリダ州は 65～74 歳と 75～84 歳までは純人口移動が増加であるが，85 歳以上は減少となる．これは，‘U ターン移動’と呼ばれる 65 歳から 84 歳までの高齢者の移動とは反対の動きをする現象であり，恐らく 85 歳以上の高齢者が歳とともに自分 1 人では自活できなくなり，親戚・知人からの介護を求めてフロリダを去る移動と考えられる.

２．アメリカ合衆国南部への高齢者の流入の要因

１）フロリダ州への高齢者流入の要因

フロリダ州への高齢者の流入の要因は，退職した人びとが余生を温和な気候の地域で送るため、と説明されてきた。フロリダ半島は南北に長いので，実際にはフロリダ半島は 3 つの気候地域に分けることができる．フロリダ半島北部の地域は，その北にあるジョージア州南部やアラバマ州よりもやや暖かい程度で,霜が降りるし,

時には氷が張ることもある.そのために住民は四季を感じることができる.しかし，合衆国北部の厳しい冬の寒さに慣れた人びとにとっては，寒いと言っても太陽が照り，1 月と 2 月の温暖な日で華氏 70 度台（21.1℃～26.6℃）と 80 度台（26.7℃～31.7℃）は快適である.

また，フロリダ半島の中央部 1/3 の地域は亜熱帯気候となり，ほとんど霜が降りることもないし，氷が張ることもない．時に気温が氷点下になると，農業に大きな影響を及ぼす．この地域では，柑橘類の木々が住宅の裏庭にあり，住民は短パンと半袖シャツで年間を過ごすことが出来る．フロリダ半島南部の 1/3 は熱帯気候で，戸外にはココナツの木やハイビスカス，蘭が繁茂し，冬でも気温の変化は少ない.

フロリダ州の夏は気温が高すぎて湿度も高すぎる，という意見もあるが，これに対する反応も分かれる．つまり，フロリダ州に来る前に居住していた地域の夏の気候がどんな状況であったかによる．ずっとフロリダ州に住んでいる人びとは，ニューヨーク市やシカゴ，ワシントン，D.C.における夏の湿度の高さに対する不快感の方が大きいと言う．フロリダ州の夏の湿度は高いかもしれないが，いつもそよ風が吹いていて，大気汚染がなく，最高気温の時でも 35℃を超えることがないということで，湿度の高さはあまり気にならないと言う.

フロリダ州において屋内の気温を調節するためにエアコンは必要である．もちろん夏には冷房用にエアコンを使用するが，冬になると北東部の州とは違って暖房のためにエアコンを使用することはない．北東部や中西部から移動してきた退職者にとって，フロリダ州は，雪と氷に覆われ，曇天の日を送ってきた北国よりもはるかに快適な土地である.

気候の点からの快適さと同様に，フロリダ州の地形の特色もフロリダ州でのアウトドア生活を送るうえで重要である．フロリダ半島は南北に細長く延びており，東側の大西洋と西側のメキシコ湾の海にはフロリダ半島のどこからでも高速道路を利用して 1 時間程度で到達できる．大西洋とメキシコ湾の海岸は正確に測定すると，8,000 マイルにも達する．この長大な海岸での海水浴と日光浴がアウトドア・レクリエーション活動の 1 つであり，きれいな海岸に近いことが退職高齢者の居住地選択に影響を及ぼす．フロリダ半島北部の大西洋岸（デイトナ・ビーチの南から北のジャクソンビル・ビーチまで）は極めて細かい砂が堅く締まっていて，ここでは自動車の運転と駐車も可能である．フロリダ半島南部の大西洋岸では海岸の砂が緩やかに足首まで達するような柔らかさがあり,メキシコ湾の海岸では海水温度が高く，海岸の砂は砂糖のような白さである．マイアミ・ビーチのように開発が進んで，海岸が高層のホテルやリゾート・ホテルの陰になってプライベート・ビーチになっているところもあるが，フロリダにはまだ一般の人びとが楽しめる砂浜がたくさんあり，しかもそれらは自然の状態のまま維持されている.

フロリダ半島の多くの砂浜は，本土とは川や湖，ラグーン（潟湖）で隔てられた，

細長い沿岸州にある．半島本土と沿岸州の間にある水域の部分は運河や浚渫によって内陸沿岸水路（Intracoastal Waterway）となり，小さな船は大西洋やメキシコ湾に直接でなくても海岸沿いに航行できるようになっている．このように保護された水路にそって多数のマリーナがあり,多くのプレジャー･ボートが係留されている．プレジャー・ボートによる航行もフロリダにおけるアウトドア・レクリエーションの１形態である．

フロリダ州を退職後の定住地として選択する人びとの多くは，フロリダ州の温暖な気候とその気候の下でのアウトドア・レクリエーションを移住の理由として挙げる．フロリダの高齢者はシャッフルボードだけではなく，ゴルフ，テニス，スキューバ・ダイビング，水泳，ウオータースキー，釣り，狩猟，建物の中でのエアロビクス，運動など，多様なスポーツとレクリエーションを楽しんでいる．

かつて，フロリダ州の高齢者の多くはフロリダ半島南東部の 4 つのカウンティ（Monroe,Dade,Broward, and Palm Beach counties）に住んでいた．4 つのカウンティに居住する高齢者（60 歳以上）の比率は 1950 年にはフロリダ州の 25%であったが，その後増加し 1960 年には 30.3%，1970 年には 35.5%，1980 年には 36.0%に達した．そのなかでも，マイアミ・デード・カウンティはマイアミ市とマイアミ・ビーチ市を含んでいるので，多数の高齢者が居住していた．マイアミ・デード・カウンティの北に位置するブロワード・カウンティはフォート・ローダーディルを含んでいるので，1960 年代に高齢者人口が急増した．また，1970 年代にはパーム・ビーチ・カウンティの高齢者人口の増加率がブロワード・カウンティのそれを上回るようになった．これらのカウンティに居住していた高齢者は，海岸沿いの中層のアパートに住むことが多かった（写真１）．

写真１　高齢者が多く居住していたマイアミ・ビーチ市のアパート街（1986 年撮影）

フロリダ州の高齢者は,前述したように半島の南東部や西海岸の大都市圏内に居住することが多かった．1990年代の高齢者の分布をみると，半島南東部のマイアミ・デード・カウンティをはじめとするカウンティでは高齢者率が減少し，それに替わってその北部やフロリダ州西部・中部のカウンティにおける高齢者率が増加するようになった（図４）.

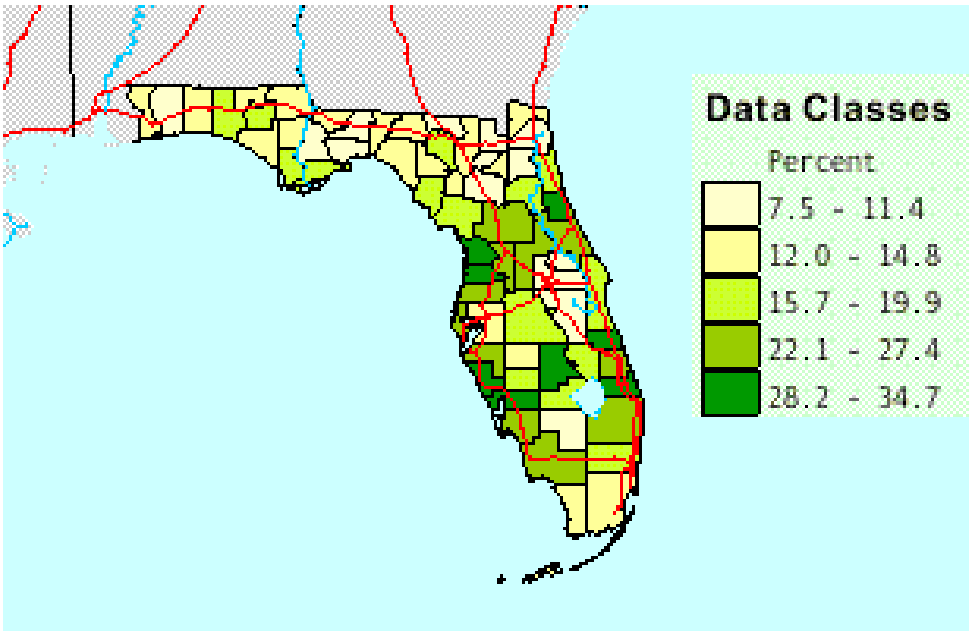

図４　フロリダ州のカウンティ別高齢者比率（2000年）
資料：U. S. Bureau of Census, Census 2000.

図４によると，2000年時点でのフロリダ州の高齢者の分布は東海岸のマーティン，インディアン・リバーとフラグラー・カウンティの比率が高く，西海岸でもシャーロッテ，サラソタ，ヘルナンド，シトラス・カウンティと中央部のハイランズの比率が高くなっている．高齢者の比率が高い，これらのカウンティは，大都市を含む場所ではない.大都市のないカウンティにおいて高齢者比率が高くなっていることは注目に値する．これらのカウンティに次いで高齢者比率が高いのは，フロリダ半島南端とフロリダ・パンハンドルを除く地域である．つまり，フロリダ州の中央部は全体的に高齢者比率が高い.

しかし，高齢者人口の多い地区は大都市の存在するカウンティであり，マイアミのあるマイアミ・デード・カウンティ，フォート・ローダーディルのあるブロワード・カウンティ，ウェスト・パーム・ビーチのあるパーム・ビーチ・カウンティ，セント・ピーターズバーグのあるパインラス・カウンティ，タンパのあるヒルズボロ・カウンティなどが高齢者人口を多く含んでいる.

図５により，1970～2000年にかけて純人口流入によって人口増加が著しかったカ

ウンティをみると，前述の高齢者比率が高く，高齢者人口が多いカウンティとほぼ一致する．しかし，大都市のないカウンティにおいても高齢者人口の流入による人口増加の影響が大きいカウンティがある．これらのカウンティでは，フロリダ州の中央部から南部にかけての地域と大都市圏の間に挟まれた地域である．高齢者の居住する地域には高齢者のために開発されたリタイアメント・コミュニティが存在することが多い．

リタイアメント・コミュニティは，開発された住宅地域がすべて退職者用のコミュニティで，健康な高齢者がアウトドア・レクリエーションをするためのゴルフ・コース，プール，テニス・コート，シャッフルボード施設を備え，室内トレーニング場，室内プールなどもある，活発な活動を行う退職者を目当てにしている．これらのコミュニティは，とくにインターステート75号沿線にみられ，道路際には「アクティブ・アダルト・ライフ・コミュニティ」とか，「ゴルフ・コミュニティ」，「55プラス・コミュニティ」の看板で退職者の入居を誘っている．コミュニティのなかにある住宅は，開発業者が建設した戸建てと共同住宅である．また，コミュニティはモービル・ホームやモービル・ホームを2つ連結した住宅からなるところもある．

フロリダ州のカウンティ別純人口移動率の分布をさらに詳しく検討すると，移動率の高いカウンティ，つまり高齢者1000人当たりの高齢者の流入（1995～2000年）が多かったところは南部のコリアー・カウンティ，西海岸近くのサムター・カウンティ，東海岸フラグラー・カウンティ，北部のスワニー・カウンティ，パンハンドル地域のリバーティ・カウンティである（図６）．これらのカウンティは大都市があるカウンティではなく，人口規模も小さく，そこにある小規模な高齢者コミュニティの存在が，高い純人口移動率をもたらしたものと考えられる．さらに，純人口移動率が次に高い階層をみると，フロリダ半島の東海岸と西海岸沿いのカウンティであることが分かる．これらのカウンティは伝統的に大都市も含むカウンティである．

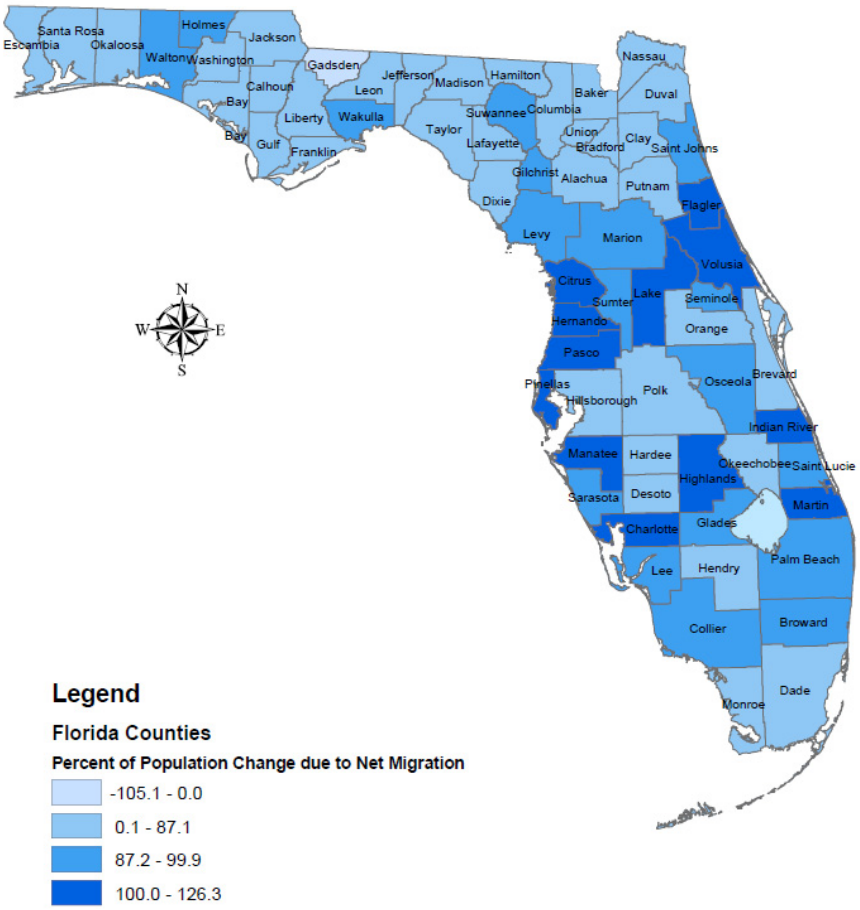

図５　純人口流入による人口増加率（1970～2000 年）

資料：Florida Office of Vital Statistics より作成

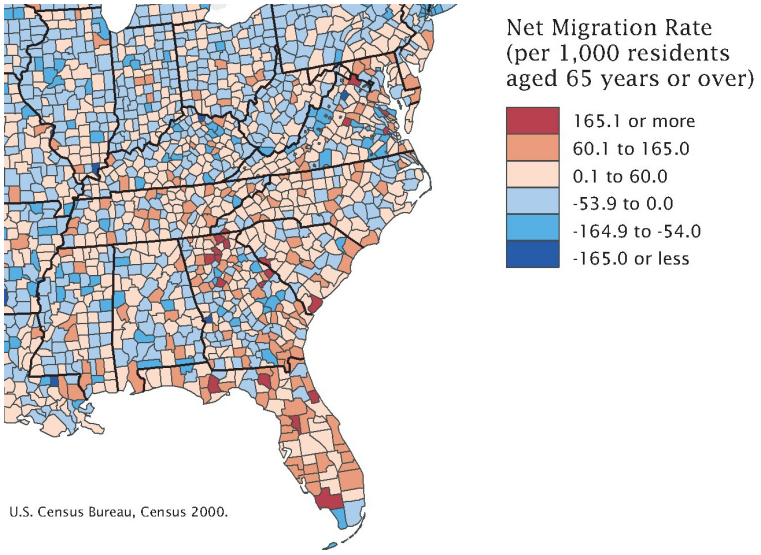

図６　65 歳以上の純人口移動率（1995～2000 年）

資料：U. S. Census Bureau, Census 2000.

２）アパラチア山地と大西洋沿岸部への高齢者流入の要因

南部における 1995～2000 年にかけての高齢者の移動をみると，フロリダ州への多数の移動の他に，ノースカロライナ州，テキサス州，ジョージア州，サウスカロライナ州，テネシー州への移動も注目される．ノースカロライナ州・テネシー州・ジョージア州への高齢者の移動の 1 部はアパラチア山地への移動と関係したものであり，テキサス州・サウスカロライナ州の高齢者の移動は大西洋・メキシコ湾岸の退職者向け地区に向かうものである．

ノースカロライナ州・テネシー州・ジョージア州への高齢者の移動は，アメニティ移動と故郷への移動の 2 つのタイプを含んでいる．ノースカロライナ州西部のアッシュビルは,ブルーリッジ山脈がグレートスモーキー山脈につながる場所にあり，近くのヘンダーソンビルとブレバードとともに退職者の住む地域となっている．アッシュビルは海抜約 700 メートルの地点に位置し，冬には寒くなるけれども，それほど厳しい寒さではなく，夏には高地のため快適な気候となる．この地にジョージ・バンダービルトがビルトモア・ハウスを建設したのをはじめ，ヘンリー・フォードやトーマス・エジソンが避暑のため滞在し，避暑地として有名になった．その後も，多くの避暑客・観光客が訪れて，この土地の夏を経験した人びとが退職後の住みかとしてこのアパラチア山地の土地を選ぶことが多い．テネシー州中央部カンバーランド台地に位置するクックビル（Cookeville），クロスビル，ホリデイ・ヒルズ，ザ・オーチャードはグレートスモーキー山脈からは離れているが，山地の風景を十分楽しむことの出来る場所であり，西のナッシュビル，東のノックスビルへはそれぞれ自動車で 1 時間程度の距離である．クックビルは中西部の退職者に人気のある場所である．ここは，カンバーランド台地の中央部にあり，丘陵，渓谷，滝などの自然景観がきれいである．また，ここは土地が安く，そのうえ生活費も安く，犯罪率も低く，不動産税も安いので人気である．ホリデイ・ヒルズは湖とゴルフ・コースの周囲に開発された町で，リゾートとして知られていたが，退職者の住居も増加してきた．ジョージア州北部のレイバン，ヘイバーシャム，ランプキン・カウンティは退職者の地域として知られている．この地域は四季がはっきりとしていて，冬があるが時々雪が降る程度で寒さは厳しくない．夏は冷涼な風によって涼しくなり，凌ぎやすい．

ジョージア州とサウスカロライナ州の大西洋沿岸には古くから裕福な人たちの避寒用の別荘地が存在していた．なかでも，ジェイキル・アイランドでは，ロックフェラー，モルガン，バンダービルト，ピューリツアーなどの富豪がビクトリア風の 2・3 階建ての別荘を持っていた．第二次世界大戦の前に，これらの富豪たちの別荘と彼らの集うクラブはジョージア州に買収され，公園となった．しかし，かつての別荘地に再び退職者が借地に住宅を建設するようになり，ここもリタイアメント・コミュニティとなった．ここでも，ゴルフ・コースとテニス・コートが主要なスポ

ーツである．サウスカロライナ州南西部の大西洋岸にあるヒルトン・ヘッド・アイランドは人気のあるバケーション地域である．ここでも，ゴルフ・コースとテニス・コートがリゾート施設に付随している．（菅野峰明）

Ⅳ　高齢者を受け入れるフロリダ州の環境

前章でも検討したように，フロリダ州はアメリカにおける高齢人口移動の代表的な到着地の１つであるが，多くの高齢移動者を引きつける魅力は何であろうか．アメリカ国内では，退職後の居住地移動を薦めるガイドブックが数多く出版されており，一般的な書店で到着地に関する様々な情報を入手できる．本章では，これらのガイドブックを主要な資料として，高齢移動の到着地としてのフロリダ州の環境を検討する．

１．自然環境

フロリダ半島は北米大陸の南東部に位置する半島であり，大西洋とメキシコ湾に挟まれている．かつて海底であった部分が海水面の低下によって陸地となった（Hudson, 2001: 160）ため，特に高い山などは存在せず，最も標高の高い部分でも 345 フィート（105m）に過ぎない．さらに石灰岩からなる地盤は降水によって侵食され，大小あわせて 3,000 以上の湖が州内に存在する．州の総面積は約 5 万４千平方マイル（約 14 万平方キロメートル）であるが，その 8%を湖や河川が占める．このような地形条件は，高齢者にとっても移動が用意であり，さらに湖畔でのキャンプや釣り，ボートなど様々な娯楽を提供する基盤ともなっている．

フロリダ州の自然環境の中で最も高齢者を引きつけるのが温暖な気候であろう．フロリダ州の気候は豊富な降水量と気温の高さに特長づけられるが，特に，冬期に雪のために外出できずさらに雪かきの労力も必要となる北部や中西部の高齢者にとって，フロリダ州の冬の気候は非常に大きな魅力である（Howells, 2003: 86）．州の北部で霜が降りるのは年間で 80 日程度であり，南部は無霜地帯である（図７）．この温暖な気候は，フロリダ州が国土の中でもっとも緯度の低い地域にあることに加え，メキシコ湾流が半島に沿って流れていることに起因する．降水量は毎年 60 インチ（1500mm）前後の降水があり，本土 48 州の中では最も降水に恵まれた地域と言えよう（注１）．アメリカの中でも降水に恵まれた地域であると言えよう．この豊富な降水量が，先述したフロリダ州の地形にも影響を与えている．

こうした温暖で湿潤な気候の他に，フロリダ州の気圧という要素も過ごしやすい環境を提供している．加齢とともに心身の状態が変化すると，周辺環境のわずかな変化が体調に影響を及ぼす場合がある．特に関節や心臓に疾患のある場合，気圧や気温の変動は大きな負担となることがある（Savageau, 2004 : 167）．図８は，２月における大気圧の日較差の平均を示しているが,高緯度地域や内陸部が 0.20 インチ

前後の変動を示すのに比べ，低緯度地域や沿岸部は変動幅が小さい．特にフロリダ州の変動幅は 0.1 インチ程度であり，アメリカの中でも気圧の変動が小さい地域である．このことは，加齢とともに心身の状態が変化する高齢者にとって，大きな魅力の１つと考えられる．

フロリダ州はこのように恵まれた自然環境を持つ一方で，自然災害のリスクも小さくない．その一つが，フロリダ州で頻発する雷雨（Thunderstorm and Lightning）である．

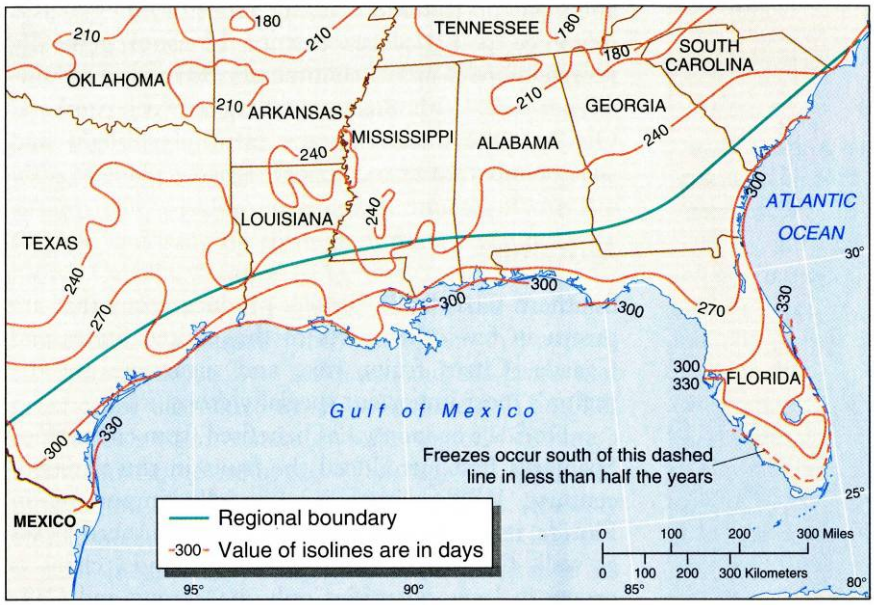

図７　アメリカ南部における生育期の長さ

資料：Birdsall et al.（2005），ｐ．188 より作成．

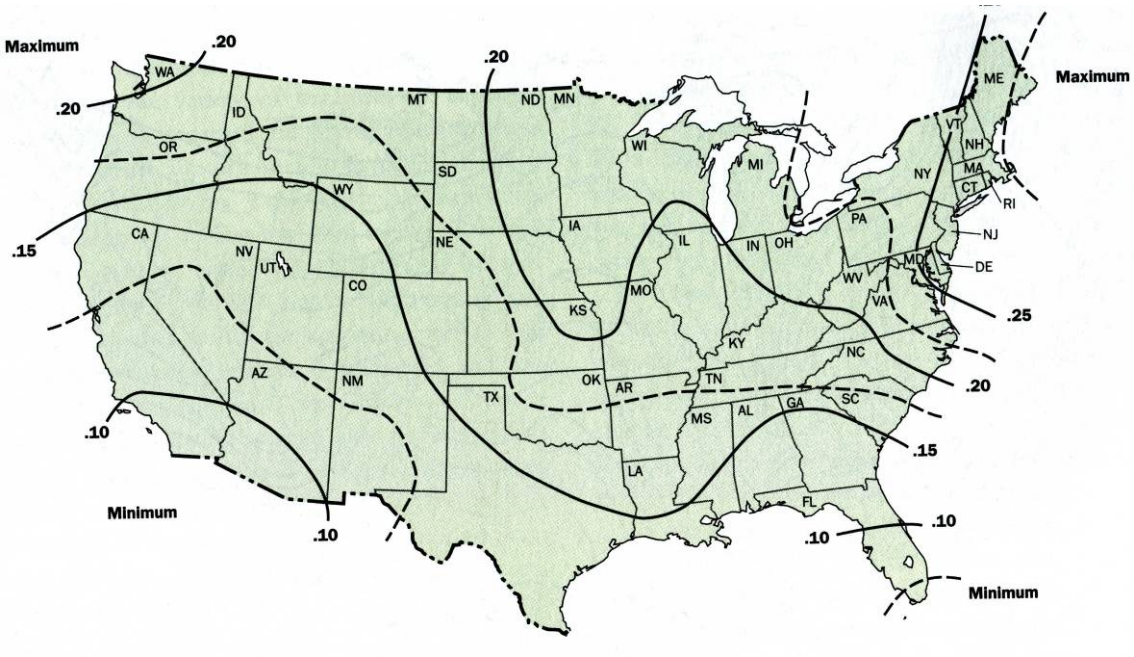

図８　アメリカにおける日単位の気圧変化（２月）

単位：インチ

資料：Savageau(2004)，ｐ.167 より作成.

雷雨は雷とともに激しい雨をもたらすが，雨の勢いは非常に強く，自動車で移動中はワイパーを動かしても周囲を見通すことのできないほどである．フロリダ州危機管理局（http://www.floridadisaster.org/）によると，フロリダ州では１年に 80 日程度の雷雨があり，１日に複数回発生することもある．雷雨発生時の豪雨が直接的に人的被害を及ぼすことは少ないが，大気の状況によって雨ではなく雹が降る場合がある．雹が降った場合は，人的・物的な被害をもたらすことがある．さらに，フロリダ州において大きなリスクとなるのがハリケーンである．カリブ海で発生したハリケーンは勢力を弱めないうちにフロリダ州付近に到達し，大きな被害をもたらす．これらはフロリダ州に多くの降水をもたらす一方で，大きな被害を与えることもあるため，フロリダに移住した高齢者の中には，気温が高くハリケーンの恐れのある夏の間は子どもや孫のいる北部に戻る者も多い（注 2).

２．社会環境

高齢者を取り巻く社会環境も,退職後の居住地を選択する上で重要な要因となる．その一つに，安全という要素があるであろう．退職後の居住地移動に関する多くのガイドブックでも,安全面に関する記述は頻出する(Howells 2003,Savageau 2004)．FBI のデータを見ると，フロリダ州における犯罪の発生割合は強盗，窃盗など犯罪の種類を問わず全米平均値よりも高く（注 3)，治安が良いとは言えない．しかし一

般的に，犯罪の可能性が高いのはより規模の大きな都市部である．人口 10 万人当たりの暴力事件の発生割合を比較すると，大都市地域が 509 件であるのに対して非大都市地域では 206 件と半減する（表４）

こうしたことから，退職し通勤という制約の無くなった高齢者は非都市的地域へ移住し，必要に応じて都市部へ出かけるパターンが望ましい．実際にフロリダ州でもマイアミなどの大都市圏地域への高齢者の流入は弱まりつつある．

表４　アメリカにおける人口 10 万当たりの犯罪発生件数（2005）

地域	暴力犯罪	窃盗
全米	469.2	3,429.8
大都市地域	509.7	3,598.8
大都市郊外	373.5	3,998.1
非大都市地域	206.8	1,700.1

注）人口10万当たり　　資料:FBIホームページ

さらに近年増加しつつあるのがゲーテッド・コミュニティとよばれるタイプの住宅地域であり,入り口に守衛が常駐し居住者以外の進入を防ぐコミュニティである．リタイアメント・コミュニティの多くはこのゲーテッド・コミュニティのタイプであり，自然条件や後述する経済環境と総合的に検討する中で，フロリダ州への移動が選択されていると考えられる．

フロリダ州の社会環境として，伝統的なリゾート地域という特性も指摘することができる．温暖な気候や美しい海岸，湖などの自然環境を利用して，フロリダ州はボート，釣り，キャンプなど屋外リゾートの中心地域であった．さらにディズニーワールドやシーワールド，ユニバーサルスタジオなど著名なテーマパークが進出することによって，多くの人が訪れる観光地としての性格を強めている．伝統的な観光地として多くの観光客を集める中で，次第にフロリダ州で生活しようという意志を固めることも多いと思われる．実際に，サン・シティ・センターで入居者に対して行った聞き取り調査では，全ての回答者（７名）が，高齢となる以前からフロリダ州での滞在経験があり，フロリダ州の状況を理解してから入居していた．

３．経済環境

退職し勤労所得の無くなった高齢者にとって，生活にかかる費用は生活を営む上で非常に重要な問題であり，退職後の居住地を決定する上で重要な意味を持つ．その点で，フロリダ州は高齢者が生活する上で経済的な州であると評価されている（Gollattscheck and Murray 2001：8）．表５は，フロリダ州内の主要な高齢者流入地域における生活コストを全米の平均値を基準として比較したものである．デイトナビーチやマイアミ，オーランドなどの現在でも多くの旅行者が訪れる観光地は，

コストが高い傾向にあるが，フロリダ州内のその他の地域は，総合的に見て全米平均とほぼ同じコストで生活が可能である．

表５　フロリダ州の主要な高齢者流入地域における生活費の指標

地域	総合値	住宅	医療	食料雑貨	ユーティリティ
Orland	99	87	101	102	107
Gainesville	95	84	85	100	101
Palm Coast	97	91	100	101	100
Daytona Beach	100	102	100	96	103
Miami	102	89	122	100	116
Fort Myers	98	92	97	104	106
Tampa-St.Petersburg	97	94	100	99	88
Panama City	99	93	95	99	97
Pensacola	97	88	99	97	100

注）指標は全国平均を100とした相対値である．
　ユーティリティは上下水道，ガス，電気など
Howells（2003）より作成

表５の中でも，住宅コストが相対的に安価であることが注目される．退職後に移動する場合，まず必要となるのが新たな住宅であり，その価格は移動の意思決定に大きな影響を持つと思われる．多くの高齢移動者を受け入れてきたフロリダ州では，高齢者向けの住宅は豊富である．住宅そのものの選択肢としては，一戸建て，集合住宅，あるいはトレイラーハウスなどが新築・中古ともに供給され，さらにコミュニティの種類としてもゴルフ・コースやプールなど各種施設を有するコミュニティから単純な居住機能の住宅地域まで，様々なタイプが存在する．そのため，住宅価格は低価格なものから高価格なものまで多数の選択肢が用意されており，全体として価格は安価に抑えられていると言えよう．

実際に，フロリダ州内のスーパーなどで無料配布されている住宅情報誌（図９）を見ると，7000 ドル程度の中古物件から 50 万ドルを超えるものまで，価格帯は非常に幅広い．このことは，移動を検討する高齢者にとって，それぞれの経済状態や生活の希望にあわせて物件を選択できることを意味しており，移動後の住宅取得を安価に抑えることも可能となる．

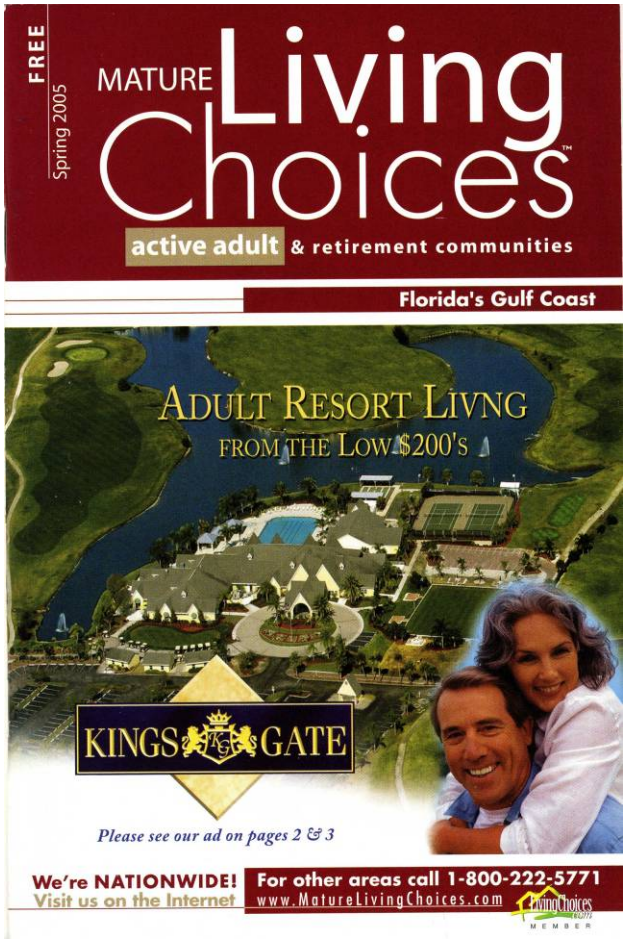

図９　スーパーなどで無償配布されている住宅情報誌

このような支出に関する側面のみでなく，収入の面も退職後の生活を設計する上で重要な要素である．現在，退職直後のアメリカの高齢者のうち 93%は社会保障（Social Security）による収入を得ているが，証券や民間の年金などの他の種類の収入を有する者は半数未満である（Savageau 2004：45）．つまり，高齢者の大部分にとって社会保障が唯一の収入源であり，その収入を管理することが生活を営む上で重要な問題となる．

この限られた収入を守る上でフロリダ州が大きな特徴としているのは，州および州内の自治体が所得税を徴収しない点である（注４）．このことは社会保障を主要な収入源とする高齢者にとって非常に魅力的な点であろう．

州が提供する各種サービスの財源は売上税（6%）であるが，食料品や医師の処方に基づく薬や医療サービスに関しては税金が免除される．フロリダ州は，ディズニーリゾートやユニバーサルスタジオなどテーマパークが数多く立地し，さらに海岸や湖でのリゾートなど全米有数の観光地であり，高齢者のみならず子供や成人などの州外から多数の観光客を引きつけている．彼らは旅行中に購入する様々な財やサ

ービスにかかる売上税や，ホテルやモーテルなどの宿泊にかかる「tourist tax」などを支払う．このように州外から訪れた旅行者が支払う各種の税金がフロリダ州の税収に貢献し，州内に居住する高齢者自身の負担を低下させることにつながっている．実際にフロリダ州の高齢居住者からの税収は370億ドルであるのに対して，フロリダ州を訪れた旅行者からの税収は 420 億ドルであった（Gollattscheck and Murray， 2001：25）

このように州外からの観光客から徴収する税金を活用し，高齢者自身の負担を低く抑え得ている点は，高齢者を受け入れようとするフロリダ州の政策面での特長が現れていると言えよう．さらにこのような政策が可能となるのは，高齢者自身が選挙権を有しているためである．多数の高齢者がフロリダ州に移動し，彼らの生活しやすい環境を自分たち自身で成立させてきたと言えよう．　　（平井　誠）

Ⅴ　高齢者の居住するリタイアメント・コミュニティ

１．リタイアメント・コミュニティの種類

フロリダ州において退職高齢者は様ざまな住宅のなかから好みのものを選択できる．退職高齢者は家に子どもはいないし，もっと節約した生活をしたいと思って住宅をダウンサイズすることが多い．ところが，一方では裕福な人びとは遠方から来る客を楽しませるための部屋を求めて広い住宅を購入する人もいる．広々とした空間のなかに住みたいと思う人もいれば，都市の真ん中に住みたいと思う人もいる．フロリダ州には様ざまなスタイル，大きさ，価格の戸建て住宅，コンドミニアム，アパートメントが存在し,退職高齢者は自分たちの生活に合った住宅を選択できる．

このように選択可能な住宅のなかで，最近開発が進んでいるのがリタイアメント・コミュニティである．リタイアメント・コミュニティは多くの場合，居住者は55歳以上という年齢制限があり，児童はいない．リタイアメント・コミュニティの開発は不動産業者によって行われ，戸建て住宅だけのところもあるし，タウン・ハウスをその中に含むもの，あるいは共同住宅も一緒に含むものもある．リタイアメント・コミュニティの規模と住宅の広さと質も様ざまである．数千戸の住宅からなるリタイアメント・コミュニティもある一方で，わずか数十戸のモービル・ホームからなるリタイアメント・コミュニティもある．

規模の大きいリタイアメント・コミュニティは，屋外の施設としてゴルフ・コース，テニス・コート，水泳プール，散歩用の小道などがあり，屋内の施設としてフィットネス・センター，図書室，コンピューター・ルーム，クラブ活動用の部屋，レストランなどを備えている．55歳以上の健康な高齢者が活発に行動をするための施設が整っている．しかし，リタイアメント・コミュニティの規模と開発者の違いによって利用できるサービスとアメニティは異なる．リタイアメント・コミュニティは居住者のライフスタイルを満足させるために様ざまなサービスを行っている．

戸建て住宅の芝の手入れや修繕，さらに 24 時間の警備，住宅内の掃除，シーツの交換まで毎月の管理費の中に含まれていることもあるし，あるいは管理費に追加料金を支払うことで，このようなサービスを受けることが出来る．

フロリダ州を南北に走るハイウェイ沿いでは，このようなリタイアメント・コミュニティを宣伝する看板を多数見ることが出来る（写真２）．その中の 1 つのスプルース・クリーク・カントリー・クラブは，カントリー・クラブという名前ではあるが，リタイアメント・コミュニティのなかにあるゴルフ・コースが目玉のコミュニティである．ここは，アリゾナ州のサン・シティを成功させたデル・ウエブ社が開発したゴルフ場付きのリタイアメント・コミュニティである（写真３）．

写真２　ハイウェイ沿いにあるリタイアメント・コミュニティの看板
（2005 年菅野峰明撮影）

新しく開発されたことと，多くのゴルフ・コース，テニス・コートをはじめとする屋外の施設や・フィットネス・センターやプールなどの屋内の施設を備えて人気があり，2007 年 4 月には分譲の住宅がなくなってしまっている．このリタイアメント･コミュニティはこれらの施設を備えて高級の部類に入る．戸建て住宅は平屋で，コミュニティのなかを走る道路から住宅までドライブウェイがあり，その延長上に，住宅の１部としてガレージがある（写真４）．

写真３　スプルース・クリーク・カントリー・クラブ（リタイアメント・コミュニティ）のゴルフ・コース（2004 年菅野峰明撮影）

写真４　スプルース・クリーク・カントリー・クラブ（リタイアメント・コミュニティ）の住宅地（2004 年菅野峰明撮影）

このような高級なリタイアメント・コミュニティが人気を博している一方で，他方ではプレハブの住宅を並べただけのリタイアメント・コミュニティもある（写真５）．こうしたリタイアメント・コミュニティはレクリエーションのための施設に乏しいが，住民は低価格で住宅を手に入れ，フロリダの気候とコミュニティの外でのアウトドア・レクリエーションを十分楽しむことができる．しかも，写真５が示すように，コミュニティの安全性は保たれ，センサーと通報装置を使用しての 24 時間警備が行われている．

写真５　フロリダ半島西海岸のウィーキー・ウオーチーの
リタイアメント・コミュニティ（2005 年菅野峰明撮影）

このように健康な高齢者を対象にしたリタイアメント・コミュニティがあるが，高齢者は歳をとると，日常生活でも介護が必要になり，さらに病気にもなると医療を受ける必要が出てくる．介護や医療の施設がリタイアメント・コミュニティのなかに付属施設として設けられている場合と高齢者の介護・医療施設が独立して存在することもある．仮に妻が脳卒中で倒れ，夫が介護をすることになった場合は，リタイアメント・コミュニティのなかで食事，家事，移動手段などのサービスの提供を受け，介護を続けることが出来る．しかし，夫が亡くなってしまうと，残された妻は介護付きのリタイアメント・コミュニティに入居することになる．介護付きのリタイアメント・コミュニティはアウトドアでの活動を必要としないから，都市の中に立地することもある．都市の中では戸建ての住宅を並べるよりも，中・高層の共同住宅にする方が効率がよい．介護付きのリタイアメント・コミュニティに入居している人びとの多くは，単身である．

２．リタイアメント・コミュニティの事例

リタイアメント・コミュニティは上述したように 55 歳以上のアクティブ・アダルトを迎え入れるものと，介護を必要とする高齢者を受け入れるものとがある．後者の事例として，タンパ市にある介護付きのリタイアメント・コミュニティの John Knox Village を見ると，1 ヶ月の費用は介護の程度と部屋のタイプと広さによって異なるが，2,500 ドルから 3,200 ドルである．必要とする介護の程度に応じて種々のサービスを受けることが出来る．基本的なサービスとしては，24 時間の世話，非常呼び出しへの対応，部屋の掃除，食堂での 3 食の提供，洗濯のサービス，ショッピングや通院のための自動車サービス，建物内での医師の診察などがある．医師と

看護師から必要なサービスを受ける場合には追加の料金を支払う．

また，歳をとって活動の度合いが低くなると，屋外の施設を必要としなくなり，都市内のリタイアメント・コミュニティに移動してくる．タンパ市北部の University Village は介護を必要としない高齢者が住む市街地にあるリタイアメント・コミュニティである．ここはアパートと戸建て住宅からなり（写真６），24 時間警備のゲーテッド・コミュニティである．ここでは，食堂で必要な時に昼食や夕食をとることができ，害虫予防，ゴミ捨て，1 週間ごとの家の掃除，1 週間ごとのシーツ交換，戸建て住宅の修繕，ショッピングや通院の際の自動車のサービスなどがある．コミュニティの内部には，食堂，プール，教会，ビリヤード室，図書室，コンビニ店，手工芸室，美容室（写真７），ダンス室，フィットネス・センター，銀行，木工室，ゴルフのパット練習場，散歩の小道，卓球，シャッフルボード，温室，講堂などがあり，コミュニティの様ざまな活動を可能にしている．

写真６　ユニバーシティ・ビレッジの戸建て住宅
（2006 年菅野峰明撮影）

写真７　ユニバーシティ・ビレッジ内の美容室
（2006 年菅野峰明撮影）

Ⅵ　リタイアメント・コミュニティの事例―サン・シティ・センター

１．サン・シティ・センターの開発

サン・シティ・センターの名称の一部である「サンシティ」は，Del Webb 社の開発したリタイアメント・コミュニティのブランド名である（注 5）．サンシティの基本的なコンセプトは「活動的，経済的，独立性（Activity, Economy and Individuality）」であった（Finnerty 1991：73）．このコンセプトを実現するために，レクリエーションセンターやゴルフ場，プールなどの各種施設が設けられ，これらの資源を居住者全体で利用することで施設を安価に利用することを可能とした．さらに独立性を実現するために，Dell Webb 社はコミュニティの維持管理から一定の距離を置き，居住者自身での維持管理を重視した．このことはサンシティにおいて居住者のボランティア活動によるコミュニティの維持管理を促すことになった．

最初のサンシティはアリゾナ州フェニックスの北西に建設され，1960 年 1 月 1 日にオープンした．この最初のサンシティ（オリジナル・サンシティと呼ばれる）は，そのアクティブ・リタイアメントという概念とともに大きな成功を収め，オープン当初の 1 週間で 237 戸が販売された．社長の Dell Webb は全国的に著名な存在となり，『Time』誌の表紙を飾るほどであった（Finnerty 1991：84）．

このサンシティオリジナルの 成功を受けて，Webb 社は伝統的な高齢者の流入地域であり多くの高齢者が居住するカリフォルニア州とフロリダ州に「サンシティ」

を展開することにした．サン・シティ・センターは，タンパの南東約 20 マイルの場所に開発されたフロリダ州における最初の「サンシティ」であり，1962 年に販売が開始された．建設当時のサン・シティ・センターは州道 624 号より北の部分であった（図１０）．1972 年に 624 号線の南側にキングスポイント（Kings Point）という新たなリタイアメント・コミュニティが建設された．キングスポイントはゲーテッド・コミュニティであり，ゴルフ場やクラブハウスなどの施設も独自に所有しているなど，サンシティセンターとの関係はそれほど強くない．しかし現在では，サン・シティ・センターとキングスポイントを合わせた Greater Sun Center という統計地域（CDP）が設けられるなど，両者の区別は曖昧になっているようである．なお，以下の記述で単にサン・シティ・センターとする場合は州道 624 号線より北に位置する最初に開発されたコミュニティ部分を指し，キングスポイントと合わせて考える場合は Greater Sun Center を記すこととする（注 6）．

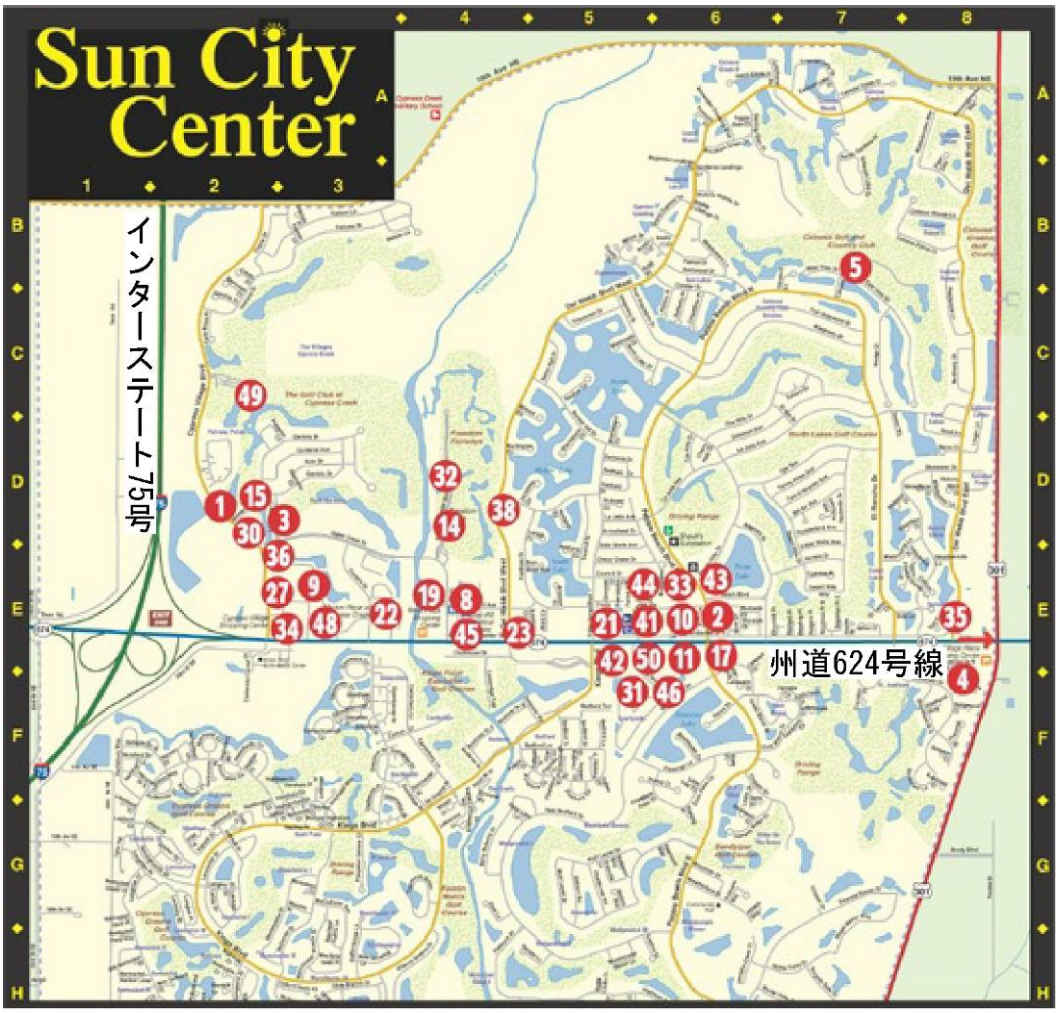

図１０　サン・シティ・センターの概要

http://www.villageprofile.com/florida/suncity/main.html より引用・修正

２．サン・シティ・センターの施設

リタイアメント・コミュニティとしてのサン・シティ・センターにおいて最も基本的な施設は住宅である．2000年センサスによると住宅戸数はサンシティが4,551，キングスポイントが3,530である．住宅はいくつかのタイプに分かれており，最も小さな住宅で 10 万ドル程度，プールやガレージの数によって価格は上昇し，最高価格帯で40万ドル程度のものまである．

上述のように，サンシティの基本コンセプトの一つに「活動的」というものがある．それを実現するために，サン・シティ・センターの中には様々な施設が整備されている．その中で最も充実しているのがゴルフ場である（写真８）．サン・シティ・センター内の全域に140以上のホールが整備されており，ゴルフ場を取り巻くように住宅や道路が配置されている．さらに，室内・屋外のプール（写真９）やテニス・コート，ソフトボール用グランド，バレーボールコート，フィットネスルーム（写真１０）など様々なスポーツを楽しむことのできる設備が整えられている．こうしたスポーツ関連の施設に加え，室内で楽しむ活動のためのクラブハウス（写真１１）や図書館，コミュニティ活動の拠点となるセンター（写真１２）などが用意されている．こうした施設の維持管理のために居住者は組合を組織し，１人年間194ドルの利用料を払っている．

写真８　サンシティセンターのゴルフ場

Sun City Center Area Chamber of Commerce 2004 より引用

写真９　サン・シティ・センターの屋外プール
（2005 年 9 月 6 日平井誠撮影）

写真１０　サン・シティ・センターのフィットネスルーム
（2006 年 9 月 6 日平井誠撮影）

写真１１　サン・シティ・センターのクラブハウス
（2006 年 9 月 6 日平井誠撮影）

写真１２　サンシティのコミュニティセンター
（2006 年 9 月 6 日平井誠撮影）

表６　Great Sun Center における産業分類別事業所数（2002）

産業分類	事業所数
Retail Trade	34
Professional, Scientific, and Technical Services	17
Administrative and Support and Waste Management and Remediation Services	3
Health Care and Social Assistance	50
Arts, Entertainment, and Recreation	4
Accommodation and Food Services	12
Other Services (Except Public Administration)	21
Total	141

（資料：2002Economic Census）

注）Economic Censusではサンシティセンターとキングスポイントを合算して集計している.

州道 624 号線沿いには，小規模なショッピングモールがあり，小売店舗やサービス業が立地している．表６は Great Sun Center に立地する事業所を産業分類別に示している．Economic Census ではサン・シティ・センターとキングスポイントを合算した Great Sun Center の数値を公表しているが，ゲートによって出入りが制限されるキングスポイントの中には事業所はほとんど存在しないため，表６の数値はサン・シティ・センター内に立地する事業所と考えてよい．産業分類別に見ると Health Care が最も多く，次いで小売業の事業所が多い．このことによって，遠くまで買い物に出かけることが困難となった高齢者であってもコミュニティの中で生活全般を賄うことが可能となっている．また「その他のサービス」も多いが，その中には機器の修理などが含まれている．ゴルフ場を中心とするリタイアメント・コミュニティではゴルフカートを移動の主要な手段として用いる者も多い(写真１３)．そのためゴルフカートの点検修理などのサービスが相対的に多く立地している．

写真１３　駐車場に並ぶゴルフカート

（2006 年 9 月 6 日平井誠撮影）

高齢者の集まるコミュニティであるため，医療機関も重要である．サン・シティ・センターの中には 112 床を有する病院が立地しており，24 時間体制の医療サービスを提供している．その他，タンパという大都市に近接しているため，そこに立地する専門的な病院やフロリダ州立大学の医療施設なども利用可能であり，公共交通機関を利用して通院が可能である．

さらに，サン・シティ・センターがオープンしてから 40 年以上が経過し，心身の状態がより大きく変化した者も増加しつつある．それらを反映し，サン・シティ・センターの中にケア施設が立地している．2002 年の経済センサスによると，Greater Sun Center エリアに「Nursing & residential care facilities」が 7 施設存在している．その 1 つである Lake Towers は，インデペンデント・リビング，アシステッド・リビング，ケアサービスと，複数の機能を併せ持った施設である．このことは，ゴルフなどを楽しむ状態から心身の状態が変化しても，サン・シティ・センターの近隣で段階に応じた介護を受けることが可能であることを意味する．サン・シティ・センターが，退職後の一時的な娯楽の場として機能するのみでなく，地域全体が「終の棲家」としての機能を果たすようになったことを意味している．

３．サン・シティ・センターの生活

本節ではサン・シティ・センターの生活について述べるが，まず居住者の概要を示す．2000 年人口センサスによると，サン・シティ・センターの人口は 7,701 人，南に隣接するキングスポイントは 5318 人で，周辺も含めた Greater Sun Center エリアは 16,321 人であった（表 7）．リタイアメント・コミュニティであるため，高齢者の割合が高いのは言うまでもないが，最も多数を占めるのは 70 歳代である（表 7 -a）．サン・シティ・センターは 55 歳以上から入居可能であるが，その年齢層の占める割合は小さい．サン・シティ・センターが完成してから 40 年を経過し，新規入居者の流入傾向が弱まり，かつて入居した者が定着し高齢化が進行していると考えられる．80 歳以上になると人口は減少するが，これは死亡によるもののみでなく，周辺の介護施設への転居があるためである（注 7）．また性比は 75 前後であり（表 7 -b），女性が卓越する人口である．これは高齢化の進んだ地域に見られる一般的な特性であるが，女性に比べ男性の平均寿命が短いことを反映している．

人種別構造の面でも大きな特長がある．表 7 -b から明らかなとおり，サン・シティ・センターでは人口に占める白人の割合が 99%であり，フロリダ州の総人口に占める白人の割合（80.0%）に比べても極めて高い．白人高齢者のみからなる社会と言って良いだろう．また，世帯数から平均の世帯人員を求めると 1.8 前後である．単身あるいは夫婦で居住する世帯が多いものと考えられよう．

このように，サン・シティ・センターではほぼ均質な人口集団が生活を営んでいる．上述のように退職後の生活を趣味やスポーツを中心として過ごすために各種施

設が整備されており，それらが活用されている（写真１４）．これは多くのリタイアメント・コミュニティに共通の生活様式である．サン・シティ・センターではアマチュア無線，ヨガ，水泳，ダンスなど 200 以上のクラブが活動している（Sun City Center Area Chamber of Commerce，2004）．

コンピュータクラブには 1,500 人以上のメンバーが参加している．また趣味を中心としたクラブのみでなく，ペンシルバニアクラブ，オハイオクラブなど出身地別のクラブも組織されている．居住者はこうしたクラブ活動に参加しており，複数のクラブに加入している者も多い．2006 年 9 月に行った聞き取り調査では３つ程度のクラブに加盟している者が多かった．さらに，このコミュニティの中心をなすゴルフは中心的な活動であり，居住者の３分の１が頻繁に利用していると言う．

こうしたクラブ活動において興味深いのはサン・シティ・センターの居住者とキングスポイントの居住者の相互交流が非常に少ない点である．ゲーテッド・コミュニティであるキングスポイントには，サン・シティ・センターの居住者でも自由に行き来することは許されていない．キングスポイントにはやはりゴルフ場やクラブハウスが整備されており，その維持管理費用は毎月の利用料から捻出されている．そのためキングスポイント内の施設を利用するのは居住者に限定されている．サン･シティ･センター内のショッピングモールは両地区の居住者が利用しているが，彼らの日常において主要な活動であるゴルフやクラブ活動が分断されているため，隣接しているにもかかわらず２つのコミュニティ間の交流は少ない．

サン・シティ・センター居住者の活動において大きな特長となっているのがボランティア活動である．前述のように,「サンシティ」というコミュニティでは「活動的，経済的，独立性」という基本コンセプトがあり，アリゾナ州のオリジナルサンシティでも，居住者自身がボランティアグループを組織し，コミュニティの維持管理を担ってきた．このオリジナルサンシティの成功を受けて開発されたサン・シティ･センターにおいても,住民によるボランティアは重要な役割を果たしている．先ほどのクラブ活動とは別に，ボランティア組織に加入し何らかの形でコミュニティの運営に参画している者も多い．

サン・シティ・センター内で活動するボランティアグループの中には，以下のようなものがある．

表７　サン・シティ・センターの人口構成（2000）

a)年齢構造

	Greater Sun Center		Sun City Center		Kings Point	
人口総数	16321		7701		5318	
	男性	女性	男性	女性	男性	女性
計	6960	9361	3348	4353	2197	3121
20歳未満	36	40	36	38	0	4
20～55歳	260	393	172	254	68	109
55～59歳	232	457	114	222	69	135
60～64歳	530	819	272	419	149	235
65～69歳	949	1278	495	619	265	375
70～74歳	1395	1805	635	766	441	592
75～79歳	1540	1918	671	821	519	646
80～84歳	1206	1483	555	678	393	509
85歳以上	812	1168	398	536	293	516
	Greater Sun Center		Sun City Center		Kings Point	
(%)	男性	女性	男性	女性	男性	女性
20歳未満	0.2	0.2	0.5	0.5	0.0	0.1
20～55歳	1.6	2.4	2.2	3.3	1.3	2.0
55～59歳	1.4	2.8	1.5	2.9	1.3	2.5
60～64歳	3.2	5.0	3.5	5.4	2.8	4.4
65～69歳	5.8	7.8	6.4	8.0	5.0	7.1
70～74歳	8.5	11.1	8.2	9.9	8.3	11.1
75～79歳	9.4	11.8	8.7	10.7	9.8	12.1
80～84歳	7.4	9.1	7.2	8.8	7.4	9.6
85歳以上	5.0	7.2	5.2	7.0	5.5	9.7

b)人口の概要

	Greater Sun Center	Sun City Center	Kings Point
性比	74.4	76.9	70.4
白人	16152	7599	5284
白人（%）	99.0	98.7	99.4
世帯数	9149	3979	3116
平均世帯人員	1.8	1.9	1.7

（資料:2000年人口センサス）

写真１４　パッチワーククラブ
（2006 年 9 月 6 日平井誠撮影）

写真１５　Emergency Squad の救急車
（2006 年 9 月 6 日平井誠撮影）

・Security Patrol：この組織は５台の無線車で常にコミュニティ内を巡回し，パトロールを行っている．実際の警察力は持たないため，非常時には無線を用いて郡の警察に通報することとなっている．フロリダ州のリタイアメント・コミュニティでは夏の間地元に帰省する「Snowbird」が存在するが，不在期間の住宅の見回りや郵便物や新聞のピックアップなども重要や役割となっている．

・Emergency Squad：24 時間の救急サービスを提供する組織である．400 名程度が参加者しており，救急以外にも車いす利用者の医療機関への送迎サービスや血圧の確認なども行っている．このグループは，キングスポイントの居住者であっても緊急時は出動し，病院への搬入を行っている．これらの直接的な機能のみでなく，救急の電話番号に電話することで不安を解消しようとする居住者も多い．2004 年にはそのような電話も含め１年で 7,200 回の電話があった（写真１５）．

・Samaritan Services：日常生活を手助けする組織であり，行政サービスの補助，配食サービス，アルツハイマー病患者に対するケアなどを行っている．その中でも特に重要なのは買い物や食事など外出時に付き添うサービスである．

・Mini Bus：コミュニティ居住者が食事や買い物などに出かける際にサポートする組織である．月に１度コミュニティ街のショッピングモールへ出かけている．自動車の運転などに不安を感じコミュニティの外へ出かける機会が減少する居住者にとって，貴重なサービスとなっている．

・Information Center：入居希望者や研究者などにコミュニティの基本的な情報を提供する．

これらの活動には，運転者のように直接的に関わる人の他に，利用者からの電話を受ける係や人員の配置をする管理的人材，自動車の維持管理など，多様な人材を必要とする．そのためサンシティセンター内ではボランティア募集のチラシが配布され，常に人材を募集している（写真１６）．また活動に必要な経費は居住者からの寄付に依存しており，Emergency Squad の場合入居時に 30 ドル，さらに毎年 30 ドルが基本的な寄付金となっている．

一方「サンシティ」ブランドのコミュニティでも，近年開発されたものは住民のボランティア活動は行われていない．例えば，フロリダ州オカラ近郊のサマーフィールドに建設された Spruce Creek Country Club は，Del Webb の名を冠した，ゴルフを中心としたリタイアメント・コミュニティであるが，居住者自身がコミュニティの維持管理に関わることは無いと言う．居住者は相当の金額を支払った上でコミュニティ内の諸施設を利用し生活を楽しむことに専念し，道路の維持管理や補修などは全て専門業者が実施しているという．そのため Spruce Creek コミュニティには，居住者のボランティアグループは組織されていない．これは，リタイアメント・コミュニティに対する期待が 1960 年代から大きく変化し，様々な娯楽やサー

ビスを純粋に消費する空間となったことを示しているのであろう．

サン・シティ・センターでは，ゴルフやクラブ活動を中心とする個人の趣味的な生活に加え，コミュニティのために活動するボランティア活動が盛んに行われており，それがこのコミュニティでの生活の特徴となっている．　（平井 誠）

写真１６　ボランティア募集のポスター
（2006 年 9 月 6 日平井誠撮影）

Ⅶ　高齢者の居住地選択

１．フロリダ州の高齢者の居住地選択理由

フロリダ半島の西海岸地域には高齢者のために新しく開発されたリタイアメント・コミュニティが多い．そこで、高齢者が居住地としてフロリダ州の西海岸のリタイアメント・コミュニティを選択する要因を明らかにするために2004年9月，2005年9月，および2006年9月にフロリダ州タンパ・セントピーターズバーグ都市圏において実地調査を行った．

タンパ都市圏内にあるリタイアメント・コミュニティのサン・シティ・センターで付属施設、コミュニティ内のクラブ活動等の調査と住民を対象にしたアンケート調査を行った．サン・シティ・センターは1961年に建設が始まり，現在では7,500世帯、約13,000人が居住している．住民へのアンケートの結果，このリタイアメント・コミュニティを選択した理由として一番多かったのは，温暖な気候（72%），次いでフロリダのライフスタイル（71%），犯罪の少なさと安全性（34%），生活費の安さ（26%），親類への近さ（24%）と続き，これまで言われてきたことが裏付けられた（表８）．

表８　サン・シティ・センターの選択理由

選択理由	温暖な気候	ライフスタイル	犯罪の少なさと安全性	生活費の安さ	親類への近さ
回答者	７２％	７１％	３４％	２６％	２４％
選択理由	近隣の不動産価格	住宅との関係	周囲の風景	健康との関係	教会への近接性
回答者	２１％	２０％	１７％	１５％	１１％

2005年9月6日調査、回答数92人、複数選択可。

さらに近隣の不動産価格（21%）（これは比較的安いことを意味する），住宅との関係（20%）は住宅の間取りを中心とした広さであり，周囲の風景（17%）は車で1時間以内にメキシコ湾の砂浜があり，さらに周辺には湖，丘陵があることと関係している．

これまで多くの研究やリタイアメントのガイドブックでも述べられているように，フロリダの特色と関連する要因が居住地選択の理由として挙げられた．居住地選択の理由の1位となった「温暖な気候」はフロリダ半島北部で年平均気温が18.3℃で，半島南部で23.9℃という気温からも明らかである．夏の平均気温はフロリダ半島全域で大きな違いがなく，フロリダ半島北部で26.9℃，フロリダ半島南部で28.2℃となる（Head, C.M. and Marcus, R. B., 1998）．しかし，冬の平均気温はフロリダ半島北部で11.7℃となるのに対して，フロリダ半島南部では20.3℃となり，半島北部と南部との気温の差が大きくなる．

健康な高齢者にとってフロリダの温暖な気候は年中アウトドアでのレクリエーションを可能にさせる．フロリダでのアウトドアでの活動は多様である．人気のゴル

フから釣りまで自分の体力にあった活動を選択することができ，しかも費用は安くてすむ．自分でするスポーツの他に見るスポーツも豊富である．フロリダの大都市にはプロのスポーツ・チームがあり，スポーツ観戦を楽しむことが出来る．ジャクソンビルにはフットボール，マイアミにはフットボール，野球，バスケットボール，アイスホッケー，オーランドにはバスケットボール，タンパにはフットボールとアイスホッケー，セント・ピーターズバーグには野球，フォートマイヤーズにはバスケットボールのチームがある．

アウトドアだけではなく，都市を中心にして高齢者が屋内でも楽しめる娯楽・文化活動も様ざま行われている．高齢者が参加するビンゴ，ダンス，合唱団や常時展示の美術館・博物館，植物園，時々開催される交響楽団の演奏会，講演会などがあり，コミュニティは高齢者を退屈させない．

「温暖な気候」と「ライフスタイル」から離されて3位にランクされているのが「犯罪の少なさと安全性」である．北東部や中西部の大都市においては，高い犯罪率が問題となっていて，これらの都市からフロリダ州の小さな都市や開発の進んでいない地区に移動することは，犯罪率の高い場所から低い場所への移動になると思いこんでいる高齢者は多い．高齢者は，大都市から小さな町への移動は犯罪の脅威を少なくすることと同じであると考えている．小さな町の犯罪率が低いことは確かである．最近，開発の進んでいるリタイアメント・コミュニティの多くはゲーテッド・コミュニティであり，外部からの訪問者はコミュニティの入り口でチェックされ，そのコミュニティの住民の承諾がないと内部へ入ることが出来ない．さらに，ゲーテッド・コミュニティは24時間警備されており，住民が安心感を抱いていることが多い．

しかし，観光地の多いフロリダ州において犯罪率（1,000人当たりの犯罪件数）を求める場合に常住人口が母数になって季節的に増加する観光客を加えないということがある．例えば，キィ・ウエストのように常住人口が3万人足らずの都市で，年間100万人もの観光客が訪れると観光客による犯罪が含まれるが，母数は常住人口のままなので，犯罪率は高くなる．

「生活費の安さ」も居住地選択の理由の1つである．食料品，住宅，電気・ガス・水道，交通，健康，その他の費用からなる生活費を大都市単位で比較すると，フロリダ州のケープ・コラール-フォートマイヤーズ，フォート・ローダーディール，マイアミ，オーランド，サラソタ，ウェスト・パーム・ビーチが全米の大都市の平均を上回っており，その他の都市は全米平均よりも低い（Statistical Abstract of the United States, 2006）．一般に大都市の生活費が小さな町やコミュニティよりも高いので，退職高齢者は大都市内のコミュニティよりも小さな町の高齢者用コミュニティを選択して居住することが多い．しかし，余裕のある高齢者は多数の催事に接近できる大都市内への居住を選択することもある．フロリダ州内での生活費が州平

均よりも高いカウンティは，大都市が存在する，モンロー，デード，パーム・ビーチ，ブロワード，コリアー，ピネラス，オレンジ，サラソタ，マーティンの9つのカウンティであり，残りの33カウンティは州平均よりも低い（Fox，R. and Fox，B.，1999）．フロリダ州にはライフスタイルと生活資金に応じて退職後の生活場所を選択することが出来る場所が多数存在する．

「親類への近さ」はアメリカ人家族の結びつきを示すものであろう．親類への近さは同じ住居に同居することではなく，お互いが近い距離に住んで，必要なときに訪問することができるようにという意味合いがある．お互いの家族の生活を大事にしながらも，相互の付き合いを続けていく生活が維持されている．

「近隣の不動産価格」は住宅価格との関係で把握できる．合衆国の住宅価格は周辺の生活環境から決定されることが多い．近隣の不動産価格と高齢者の購入する住宅価格との差があまりない場合には，高齢者がそのコミュニティから移動するときに売却する住宅の価格の急落を心配しなくてもいいことになる．

「住宅との関係」は，このコミュニティのなかにある住宅のタイプが，高齢者の好みのものであるかどうか，そして希望の価格かということである．サン・シティ・センターのような大規模なリタイアメント・コミュニティでは，1戸建て，横に2軒がつながったタウン・ハウス，コンドミニアムなどの種々のタイプのなかから好みの住宅を選択できる．したがって，開発後40年近く経過しているものの，種々のタイプの住宅が利用可能である．

「周囲の風景」は，タンパ都市圏に位置するサン・シティ・センターの周りの風景に関するものである．タンパ市は西隣のセント・ピーターズバーグ市と一緒になって大都市圏を形成している．サン・シティ・センターの周囲には農地，果樹園および林が見られ，農村的な景観である．しかし，自動車で１時間以内のところにメキシコ湾に面するセント・ピーターズバーグ・ビーチやクリア・ウオーター・ビーチなどの有名なビーチがあり，フロリダの海を楽しみながら生活を送ることが出来る．

「健康との関係」は，サン・シティ・センターに居住する高齢者の多くが考慮する事柄である．ここには介護を必要とする人びとのために介護施設と老人ホームがある．また，サン・シティ・センターの中にも高齢者を対象にした病院があるが，大規模な医療施設はタンパ市内にあるので，このことが住民に安心感をもたらすものと思われる．

「教会への近接性」は，アメリカ人の宗教心の高さを示すものである．とくに南部出身の人びとは日曜日に教会に行く割合が高い．サン・シティ・センターにはバプテスト，ルター，カソリック，ユダヤ教，クリスチャン・サイエンス，長老教会，英国国教会，メソジスト教，モルモン教など多くの宗派の教会があり，居住者の信仰を満たしている．

２．フロリダ州の高齢者の居住地選択

フロリダ州は退職高齢者の移住先として,合衆国内では圧倒的な人気を得ている．その理由は前節で述べたとおりである．それでは，彼らはどのような過程でフロリダ州を退職後の居住地にしているのだろうか．2006 年 9 月にサン・シティ・センターで居住者にインタービューした結果に基づき居住地選択過程を検討する．

A さん(男，66 歳)はマサチューセッツ州でトラック運転手をしていたが，56 歳の時にサン・シティ・センターを訪問して高齢者のコミュニティを知り，63 歳の時にサン・シティ・センターに戸建て住宅（床面積 600 平方フィート）を購入して夫人とともに定住を始めた．この地のアメニティに惹かれ，ゴルフカート 1 台と車 1 台を所有し，近くのスーパーで買い物をしている．主に年金と社会保障で暮らしている．ドイツ系クラブ，イタリア系クラブ，ペンシルベニア州人会に所属して友人との交際を楽しみながら紳士クラブでも活動している．子ども 2 人はジョージア州に住んでいて，年 2 回ほど会いにくる．A さんは，このリタイアメント・コミュニティの生活に満足している．

B さん（72 歳，女）はジョージア州で教師をしていたが，66 歳の時にサン・シティ・センターに移ってきた．戸建て住宅（750 平方フィート）に 1 人で住んでいる．サン・シティ・センターのアメニティ，そしてコミュニティで多くの人に会うことが出来るのが魅力であった．野鳥の観察，写真，絵画のクラブで活動をしている．ゴルフカート 1 台と車 1 台を所有し，近くのスーパーで買い物をする．主として自分の貯金で暮らしている．このコミュニティ以外の住民とも付き合いがあり，現在の生活に満足している．

C さん（92 歳，男）はニューヨーク州で教師をしていたが，55 歳の時に夫人とともにサン・シティ・センターに移住してきた．このコミュニティを選択したのは，ここに定住する前にスノーバードとして何度かフロリダ州を訪問してフロリダ州の気候が好きになったためである．このコミュニティの戸建て住宅（900 平方フィート）は所有し，ニューヨーク州の自宅もそのまま所有し，賃貸に出している．配偶者は先に亡くなり，1 人で生活している．歳をとったので，クラブ活動はとくにしていない．ゴルフカート 2 台と車 1 台を所有し，近くのスーパーで買い物をする．主として年金で生活している．コミュニティの住民が様ざまなことで助けてくれるので，ここの生活に満足している．

D さん（64 歳，女）は，オハイオ州で AT&T に勤めていた．オハイオ州の戸建て住宅を売却して,58 歳の時に夫とともにサン・シティ・センターに移住してきた．この地を選択した理由は，フロリダ州に旅行に来て，この地の気候，コミュニティおよび周辺のアメニティ，そして住宅価格が魅力であったためである．夫とともに戸建て住宅（2150 平方フィート）に住み，ゴルフカート 2 台を所有している．コミュニティのラッカークラブとオハイオ州人会に所属し,スーパーで買い物をする．

子どもたち 2 人は，フロリダ州南東部に住んでいて，月に 1～2 回程度このコミュニティにやってくる．年金，社会保障，貯金によって生活をしている．ここでの生活に満足している．

E さん（66 歳，女）は，イリノイ州とケンタッキー州で通学バスの運転手をしていた．イリノイ州でコンドミニアムを所有していたが，それを売却し，56 歳の時にこのコミュニティに移住してきた．フロリダには旅行で来たことがあり，フロリダの暖かい気候が印象に残っている．この地を選択した理由は，気候，ここのアメニティ，そしてゴルフカートを利用しての生活である．理由の 1 つとなっているゴルフカートの利用は，娘が障害者で自動車の利用が出来ないためにゴルフカートが利用できるところを探したとのことである．現在はその娘と戸建て住宅（1,700 平方フィート）に住み，社会保障と投資からの収益で暮らしている．コミュニティにおいて積極的にボランティア活動を行い，救急車の運転手をしている．また，女性クラブと愛国クラブに所属して活動している．シカゴにいる子どもとは年に 3～4 回程度ここで会う．

F さん（64 歳，女）は，フロリダ州南部で秘書をしていた．57 歳の時に夫とともにここに移ってきた．フロリダ州に長く住んでいたために，このコミュニティを選んだ理由は安全性である．ここはボランティア活動によるコミュニティ内の 24 時間パトロールが行われ，安全性が保たれている．ここに来る前に住んでいた住宅は賃貸に出して，ここでは戸建て住宅（1,250 平方フィート）を所有している．ダンスクラブと旅行クラブに所属し，余暇を楽しんでいる．ゴルフカート 1 台と車 1 台を所有している．子どもたちはシカゴ，サンディゴ，ジャクソンビル，オーランドに住んでいて，年に 1～2 回会いにくる．社会保障と軍の年金によって生活をしている．ここの生活には満足している．

G さん（64 歳，男）はメリーランド州で工業技術者をしていた．この地に移住する前にフロリダ州に来たことがあり，その時の印象がよかったので，62 歳の時にこの地の気候，アメニティに惹かれて移住してきた．夫人と一緒に戸建て住宅（1,800 平方フィート）に住んでいて，ゴルフカート 1 台と車 1 台を所有している．投資クラブ，音楽鑑賞クラブに所属して活動している．近くのスーパーで買い物をする．子どもたちはノースカロライナ州とニューヨーク州に住んでいて，年 1 回程度会いにくる．主として社会保障と投資からの収益によって生活している．

サン・シティ・センターの住民のインタービューによると，この場所を選んだ理由とその過程が把握できる．ここに移住して来た人びとは，フロリダ州に来る前にフロリダ州への旅行経験があり，その時にフロリダ州の温和な気候とアメニティの印象が強く残り，60 歳を前にして夫婦 2 人で移住してくるという．冬のフロリダ州の気候は，北東部や中西部の厳しい気候と比較すると，まさに違った世界に感じられる．このような土地にあこがれて，60 歳を前にしてフロリダ州に移住する人びと

が多いということである．

ここの人びとは，リタイアメント・コミュニティの看板にある言葉と同様に 55 歳以上の比較的早い時期に移住してきている．これは，それまで過ごしてきた地域社会との関係があまりなかったことと子どもたちの独立によるものであろう．また，ここでの生活を支えている収入が主として年金と社会保障，そして自己資金というのは，年金と社会保障で退職後の生活を新しい土地で十分やっていけることであり，合衆国の豊かさを感じる．（菅野峰明）

Ⅷ　終わりに

アメリカ合衆国のフロリダ州は第二次世界大戦後、北東部や中西部から暖かい気候を求める高齢者の流入が続き，高齢者率の高い州として知られるようになった．フロリダ州において65歳以上の人口が全人口に占める比率は16.8%（2004年）であり，全米の州の中で最も高齢者比率が高い．フロリダ州への1995～2000年の国内純人口移動60.7万人のうち，14.9万人が65歳以上の高齢者であり，全体の24.6%を高齢者が占めた．これらの高齢者の移動は，退職した人びとが余生を温和な気候の地域で送るため，と説明されてきた．高齢者はフロリダ州内では，半島の東海岸や西海岸に位置する大都市圏内の居住条件の良いところに居住することが多かった．現在は東西海岸だけではなく，大小の湖が点在する半島中央部にも高齢者が定住するようになった．

人口が高齢化するフロリダ州は，道路・上下水道・学校等の社会的施設建設のための支出が出来るだろうかとの疑問があるが，高齢者の年金・社会保障費そして個人の預金・資産から十分な消費支出が行われ，その消費税によって州の収入が賄われている．観光地となっているカウンティではホテル宿泊税を課して郡の収入を増やしている。高齢者に対する医療サービスも充実している．高齢者には連邦政府から老人医療保証費が支払われる．1 部のカウンティは積極的に高齢者を受け入れる政策をとっている．

フロリダ半島の西海岸および中央地域には高齢者のための新しく開発されたリタイアメント・コミュニティが多い．リタイアメント・コミュニティの規模は数十戸から数千戸まで規模は様々であるが，住民に対するサービスとして，ゴルフ・コース，テニス・コート，屋内外プール，サウナ，フィットネスの部屋，室内トレーニング場等を備え，さらに日常の生活を支援する建物の中に図書館，インターネットに接続できるコンピューター・ルームを備えているところもある．新しいリタイアメント・コミュニティはゲーテッド・コミュニティとなっており，防犯態勢が整備されている．

このように健康な高齢者を対象にしたリタイアメント・コミュニティがあるが，高齢者は歳をとると，日常生活でも介護が必要になり，さらに病気にもなると医療を受ける必要が出てくる．介護や医療の施設がリタイアメント・コミュニティのなかに付属施設として設けられている場合と高齢者の介護・医療施設が独立して存在すること

もある．高齢者用の介護施設を備えたアシシテッド・リビング（assisted living）・コミュニティと医療施設を備えたナーシング・リハビリテーション・コミュニティそして継続看護のコンテニューイング・ケア・コミュニティがある．健康な高齢者がリタイアメント・コミュニティに住んでいて，歳をとって日常生活の世話や介護が必要になると，アシシテッド・リビング．コミュニティに移り，さらに常時看護が必要になるとコンテニューイング・ケア・コミュニティに移ることになる．

タンパ郊外にあるリタイアメント・コミュニティのサン・シティ・センターで住民にアンケートをした結果，リタイアメント・コミュニティを選択した理由として一番多かったのは、温暖な気候（72%），次いでフロリダのライフスタイル（71%），犯罪の少なさと安全性（34%），生活費の安さ（26%），親類への近さ（24%）と続き，これまで言われてきたことが裏付けられた．

リタイアメント・コミュニティにおける生活について，住民は同じ高齢者だけが住むことに違和感をもっていることはなく，このようなコミュニティで好きなレクリエーションを楽しみ，趣味で同好の人びとと交じり合うのが楽しくて，満足している．夏にはフロリダ州の猛暑を避けて，子どもたちの住んでいる場所に行って孫たちに会うのを楽しみにしている人びともいる．このようなライフスタイルを享受できるのは，平均的な高齢者がこれまで住んでいた場所との関係を無くして，アメニティを求めての移動をすることで可能になっている．このような移動をするのは決して裕福な人たちだけではなく，平均的な高齢者でも行っていることがアメリカ社会の特色である．

（菅野峰明）

注

1）2005 年の年間降水量は 62.75 インチ（約 1600mm）で，本土 48 州の最大であった．

2）こうした移動パターンは Snowbird と呼ばれる．

3）http://www.fbi.gov/ucr/05cius/offenses/violent_crime/index.html　Table4.

4）このように収入に対して州の所得税を課していない州はフロリダ州の他にアラスカ州，ネバダ州，サウスダコタ州，テキサス州，ワシントン州，ワイオミング州がある．

5）Del Webb 社は 2001 年に Pulte Homes グループの一員となり，Del Webb という名称はリタイアメント・コミュニティのブランド名として使用されている．

6）リタイアメント・コミュニティに関するガイドブックやパンフレットの中には，この両者を区別せず統計上の「Greater Sun Center」の値をサン・シティ・センターの人口や世帯数として表示しているものが多い．本稿で記載する統計データは，合衆国センサス局の統計データベース（平井　2006）を用いてセンサストラクト単位まで分割した上でサン・シティ・センターおよびキングスポイントについて再集

計した．サン・シティ・センターはフロリダ州ヒルズボロ郡のセンサストラクト番号 140.04，ブロックグループ 3，4，5，6，7 のエリアであり，キングスポイントはトラクト番号 140.05 ブロック番号 1 およびトラクト番号 140.06 ブロック番号 1，2，3 が該当する．

7）タンパにある University Village の入居者に対する聞き取りでは，サン・シティ・センターに居住していたが配偶者が死去し住宅の維持などが困難となったため移動したという事例があった．

文献

平井　誠（2006）：American Fact Finder を用いた統計データの利用．『統計』（日本統計協会），第 57 巻第 2 号，16-21.

Biggar, J. C. (1980): Reassesing elderly Sunbelt migration, *Research on Aging*, 2, 73-91.

Biggar, J. C. (1984): *The Graying the Sunbelt; The Impact of the Elderly Migration*, Population Research Bureau.

Birdsall, S.S., Palka, E.J., Malinowski, J.C. and Price, M.L.(2005): *Regional Landscapes of the United States and Canada*. 6th edition. John Wiley and Sons.

Finnerty, M. (1991): *Del Webb: A Man. A Company.* Phoenix: Heritage Publishers.

Fox, R. and Fox, B. (1999): *Where to Retire in Florida*, Vacation Publications.

Fridesam, H. J. (1951): Interregional migration of the aged in the U. S., *Journal of Gerontology*, 6, 237-242.

Gollattscheck, J. F. and Murray, D. (2001 *Choose Florida for Retirement: retirement discoveries for every budget.* 2nd edition. Guilford: The Globe Pequot Press.

Head, C.M. and Marcus, R.B. (1998): *The Face of Florida*, Third Edition, Kendall/Hunt Publishing Company.

Hudson, J.C. 2001. *Across This Land: A regional geography of the United States and Canada*. The Johns Hopkins University Press.

Howells, J. (2000): *Choose the South for Retirement*. Globe Pequot.

Howells, J. (2003): *Where to Retire: America's Best and Most Affordable Places*, 5th edition. Guilford: The Globe Pequot Press.

Litwak, E. and Longino, C. F. Jr. (1987): Migration Patterns among the elderly; A developmental perspective. *The Gerontologist*, 27, 266-272.

Longino, C. F. Jr. (1984): Migration winners and losers. *American Demographics*,

6, 27-29, 45.

Longino, C. F. Jr. (1985): Returning from the Sunbelt, Monk, A. (ed.), *Returning from the Sunbelt: Myths and realities of migratory patterns among the elderly,* 7-21. The Brookdale Institute on Aging and Adult Human Development.

Longino, C.F. Jr. (1990a): Geographic distribution and migration, Binstock, R. H. and George, L. K. edit. *Handbook of Aging and the Social Sciences,* 3rd ed., 45-63, Academic Press.

Longino, C. F. Jr.(1992): The forest and the trees; micro-level considerations in the study of geographic mobility in old age. Rogers, A. edit. *Elderly Migration and Population Redistribution*, 23-34, Bellhaven Press.

Longino, C. F. Jr. and Serow, W. J. (1992): Regional differences in the characteristics of elderly return migrants. *Journal of Gerontology;* Social Sciences, 47,

Longino, C. F. Jr., Jackson, D. J. Zimmerman, R. S. and Bradsher, J. E. (1991): The second move: Health and geographic mobility, *Journal of Gerontology*; Social Sciences, 46, S218-S224.

Longino, C. F. Jr. and Smith, K. J. (1991): Black retirement in the United States. *Journal of Gerontology*; Social Sciences, 45, S125-S132.

Patrick, C. H. (1980): Health and migration of the elderly. *Research on Aging*, 2., 233-241.

Pillsbury, R. (2006): *The New Encyclopedia of Southern Culture*, Volume 2, Geography, The University of North Carolina Press.

Rogers, A. (1992): Elderly migration and population redistribution in the United States. Rogers, A. (ed.), *Elderly Migration and Population Redistribution: A Comparative Study*, 226-248, Belhaven Press.

Rogers, A. and Watkins, J. (1987): General versus elderly interstate migration and population redistribution in the United States, *Research on Aging*, 9, 483-529.

Savageau, D.(2004): *Retirement Places Rated*, 6th edition. Hoboken, NJ: Wiley.

Sun City Center Area Chamber of Commerce 2004. *Sun City Center Area Chamber of Commerce Community Guide*. Elgin, IL: Village Profile Publication.

Wiseman, R. F. and Roseman, C. C. (1979): A typology of elderly migration based on the decision-making process. *Economic Geography*, 55, 324-337.